

平成 30 年度

中英研會報

第 77 号

東京都中学校英語教育研究会

平成30年度 ― 行 動 目 標 ―

グローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、国は小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図ろうとしており、社会全体も大きな期待を寄せている。平成29年3月に告示された学習指導要領においては、小学校第3学年から外国語活動を、第5学年から外国語科を導入することになり、それに伴い、中学校の外国語科も大きな変革が求められることになった。東京都中学校英語教育研究会は、その期待と変革に対応するため、次のような行動目標のもと中学校英語教育のなお一層の充実・発展を目指して活動する。

1. 組織の充実とその活性化を図る。
 - (1) 都中英研の活動がより充実したものとなるよう、組織全体の見直しを継続的に行う。
 - (2) 都中英研の各種事業により多くの教員や学校が参画できるようにし、その活性化を図る。
 - (3) 都中英研の諸活動が一層活発に進められるよう、各地区の部長・幹事と連携を密にする。
2. 人材の発掘とその育成に努める。
 - (1) 有能な人材を発掘し、リーダー層の育成を図るとともに、英語教員全体の資質向上を推進する。
 - (2) 英語教員の資質向上を目指した研修事業を積極的に企画し遂行する。
 - (3) 英語教員の育成と研修の充実を目的に、授業研究を一層活発に推進できるよう支援体制を強化する。
3. 英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を強化する。
 - (1) 第32回オリンピック競技大会（2020／東京）、東京2020パラリンピック競技大会の開催を受け、東京都教育委員会等とも連携しながら、東京方式少人数・習熟度別指導の充実を図り、英語が使える生徒を育てる。
 - (2) 「東京都小学校英語教育研究会」、「東京都高等学校英語教育研究会」との情報交換を密に行い、小・中・高等学校の学びを円滑に接続できるようにする。
4. 調査・研究の充実を図る。
 - (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえながら、組織的な調査・研究を推進する。
 - (2) 英語教育に関わる基礎的事項等についての調査活動を行う。
 - (3) 英語教育に関わる今日的かつ実践的な課題についての研究活動を行う。特に小学校における外国語活動、外国語科との関連に留意した研究を充実する。
5. 英語教育に関わる各種情報の収集・発信を進める。
 - (1) これまでの広報媒体を活用して、各種情報の発信を行う。
 - (2) HP、Facebook等の活用を図り、それを通して各種情報の受信・発信を行う。
 - (3) 各地区との連携を進め、情報の共有化にとどまらず相互協力による事業を推進する。

目 次

●今、考えたいこと ～新たな時代へ～	刀根 武史	1
●Learning-centered（学習中心主義）の時代を迎えて	木村 松雄	2
●平成30年度 東京都教育委員会の取組み		
～新学習指導要領の適正な実施に向けて～	窪田 香	4
●東京都教職員研修センターにおける外国語（英語）に関する研修について	中谷 愛	6
実践研究		
(1) 平成30年度 研究開発委員会報告 概要 やり取りの質を高める外国語指導の工夫 ～質問する力の向上を通して～	東京都教育委員会	8
(2) 平成30年度 東京都教育研究員 中学校外国語部会報告 概要 英語を用いて生徒が主体的に話せるようにするための指導の工夫	東京都教育委員会	11
(3) 英語学芸大会 Playの部 第1位 “Jimmy Valentine”	鈴木真由美 峯村 雅子	15
(4) 英語学芸大会 Speech部 第1位 「伝えたい」という思いの大切さ	堀田奈梨子	16
(5) 都中英研・研究部公開授業を終えて	関口 智	17
(6) 教師道場での取り組みについて	山岸 恒一	18
(7) 関東甲信地区ブロック埼玉大会 21世紀をたくましく生き抜く日本人の育成を目指した英語教育 ～コミュニケーションを大切にする生徒の育成～	佐藤ひろみ	20
●各部報告		
・総務部報告	遠藤 哲也	22
・事業部報告	横山 達也	23
・調査部報告	大森 博	24
・研究部報告	伊地知義信	25
・プロジェクト・チーム部報告	斉藤 節子	26
・出版部報告	今本由美子	26
●研究大会報告		
・第58回 大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会（名古屋市大会）	遠藤 哲也	27
・全英連報告 第68回 全国英語教育研究団体連合会総会（滋賀大会）	難波 浩明	28
・第42回 関東甲信地区英語教育研究協議会（埼玉大会）	遠藤 哲也	29
●各地区の活動状況		30
●中英研事業報告		56
●中英研会則		58
●役員一覧		60
●あとがき		64

今、考えたいこと ～新たな時代へ～

会 長 刀 根 武 史
(東京都中学校英語教育研究会)

今、日本の英語教育は新たな時代へと歩みを進めています。ICT機器が授業に入り、デジタル教科書を使ったりコンピュータソフトを使ったりした授業や、AI搭載のロボットを活用した授業など、新しいことが授業にどんどん取り入れられています。また、この4月に行われます文部科学省の「全国学力・学習状況調査」における英語の調査でもコンピュータを使った「話すこと」の調査が行われることとなっています。さらに、都立高等学校の入試においても、英語の「話すこと」の評価について検討が進められています。このような英語教育における様々な新しい流れについて、私たちは高い意識をもって常に先を歩むように臨まなければならないと思っています。

さて、平成29年3月に告示された学習指導要領の全面実施まであと少しとなりました。先生方に置かれましては解説等を読み込み、着々と準備を進められていることと思います。

これからは、小学校の3、4年生で外国語活動、5、6年生で英語科の授業を受けてきた児童が中学校に入学してきます。2020年度以降の児童は3、4年生でそれぞれ年35時間の外国語活動、5、6年生でそれぞれ年70時間の英語の授業を受け、これからは小学校において210時間の外国語活動及び英語科の授業を受けた児童を中学校は受け入れることとなります。それだけに小中の接続が大切になるわけです。

また、中学校の英語の授業は英語で行うことが基本とされ、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能が「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の5領域となります。また、「即興」で表現することが求められています。語彙に関しても、小学校で600語～700語程度、中学校ではそれに加え1600語～1800語程度指導していくこととなります。つまり中学校では2200語～2500語程度を扱うことになり、語彙力をいかに付けていくかも課題となります。

英語教育改革が今までに経験したことのない規模とスピードで進んでいる中で、今、私たちは改めて学習指導要領をしっかりと読み込んで、新しい時代への準備を着実に進めていかななくてはならないのです。

結びに、東京都の英語科の先生方へお願いです。ぜひ、都中英研の各部の一員になって、一緒に学んでいきましょう。そして、これからの日本の英語教育、東京都で英語を学んでいる子供たちのために、大いに力を発揮していきましょう。

平成31年11月15日（金）には「主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成～新学習指導要領全面実施に向けて～」を研究主題として、第43回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会が国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に東京で開催されます。ぜひ、多くの東京都の英語科の先生方に御参加をいただきますとともに、大会の準備・運営にもお力をお借りしたく、お願い申し上げます。

新たな英語教育の時代の到来に、一緒に備えてまいりましょう。

Learning-centered (学習中心主義) の時代を迎えて

木村 松雄

(青山学院英語教育研究センター所長・青山学院大学文学部英米文学科教授)

1. 概観

英語は既に国際共通語 (English as a Lingua Franca) として認知され一部を除き世界中で使用されている。また外国語 (英語) 教育は、国際化・グローバル化の名の下国際基準 (CEFR: ヨーロッパ言語共通参照枠) に基づいて行うことが一般化され、新学習指導要領 (2020 年施行) の骨格を支えるものとなっている。またこれより初等英語教育が本格化し、外国語 (英語) 教育は、小・中・高・大を一貫した系統的かつ相互補完的な一貫教育システムの中で行われようとしている。大学における教員養成も「コアカリキュラム」の理念に基づいた包括的且つ具体的な成果を期待する内容に変わろうとしている。さらに学習そのものは、メタ認知方略 (Metacognitive Strategy) を駆使した RPDCA (=Research-Plan-Do-Check and Action) サイクルを基調とする行動目標解決型のアクティブな活動として位置付けられ、学習者は指標としての到達目標を CAN-DO リストによって、省察 (reflection) し、自己調整 (self-regulation) を図りながら、自律した存在としての学習者 (autonomous learner) へと成長することが期待されている。一方で、学習者を導き支援する教師も、自らの機能と役割を J-POSTL 等を指標として省察することで、教師として成長することが期待されている。電子化された教材を電子黒板とタブレットを用いて学習する「双方向・課題解決型学習行為」は教室の外との異文化間交流をも可能とし、AI や AR の進捗によりさらに加速することが予測される。AI による自動翻訳は、いずれ劇的に進化すれば、人の心を読み取り深い思想も伝達できるようになるかもしれない。因みに AI による同時通訳はビッグデータを用いて行うため、文法は入っていない。今後、AI の能力が人間を超える特異点を意味する「シンギュラリティ」は本当に顕在化するかもしれない。英語の 4 技能測定、特にスピーキング能力測定を可能にするのは AI の進捗に拠るところが大きくなっていくことであろう。このような高速で変化する社会環境の中で、教育、特に外国語 (英語) 教育の在り方も、従来の「教師中心主義 (teacher-centered)」対「学習者中心主義 (learner-centered)」といった 2 項対立型論理モデルでは説明できなくなっている。これ以後は、学習そのものが中心となる「学習中心主義 (learning-centered)」の時代にシフトし創造する新たな学習モデルの中で機能する教師の役割と学習者の役割が論じられることになるであろう。アクティブラーニング (AL) 研究の第一人者である溝上慎一教授 (京都大学) は、学習の「外化」の重要性を特に強調する。AL に象徴される学習中心主義の教育の目標を取って一つに絞り込むなら、「外化を通しての課題解決能力の育成」と言えよう。

2. 多重知能に働きかける課題解決能力育成

知能の定義は様々であるが、最近の研究では、外国語教育では必須とされる言語的知能は知能の一部であっても全体ではないという。知能はひとつの能力を指すものではなく、様々な能力の総合体であるという。これが、「多重知能 (multiple intelligences) 理論」

(「MI 理論」) である。人間には以下のような知能の分野が少なくとも 8 つあり、相互補完的な関係性の中で複合的に機能するという。(「多重知能」= 「論理・数学的知能」+ 「身体・運動的知能」+ 「音楽的知能」+ 「博物学的知能」+ 「言語的知能」+ 「内省的知能」+ 「視覚・空間的知能」+ 「対人的知能」)。当然人は天才でもなければ全分野の知能を高いレベルで機能させることは不可能であり、分野により得意・不得意があるのが自然である。しかし、知能を多重性による存在と捉え、相互の機能が複合的に働く課題を設定したり、協同が必要となる学習環境を保証できれば、知能は多重化し、複合的且つ相互補完的に機能し、結果として人は望ましい課題解決能力を育て且つ望ましい人間関係を構築できるはずである。国連が 2030 年までに達成を目指す「SDGs (持続可能な開発目標)」の 17 目標 (1. 貧困をなくそう、2. 飢餓をゼロに、3. 全ての人に健康と福祉を、4. 質の高い教育をみんなに、5. ジェンダー平等を実現しよう、6. 安全な水とトイレを世界中に、7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに、(中略)、16. 平和と公正を全ての人に、17. パートナリシップで目標を達成しよう。) は、正しく多重知能に働きかける課題解決能力の育成を必要としていると考えられる。言語教育環境においては、CLIL と EMI による新たな教育の在り方に多重知能育成への期待が寄せられている。

3. CLIL と EMI による小中高大社会一貫制英語教育モデル

Content and Language Integrated Learning (CLIL) は、ヨーロッパやオーストラリアで広く実施されている社会や理科等の「教科」を母語以外の外国語を用いて教える指導法で教科 (content) の学習と外国語 (language) の習得を同時に達成する目的をもった教育方法を指す (米山朝二：2011)。第 1 言語の使用を相当交えた初期の指導から目標言語のみで行う中級から上級の指導まで、地域、指導者、対象学習者によってその具体像は多様である。実際の指導には EFL の多くの手法が用いられており、アメリカ、カナダ、日本の一部で実施されているイマージョン教育 (immersion program) と共通部分を多く有している。

CLIL は 4 つの C (Content, Communication, Cognition, Community/Culture) を統合した形で言語教育の質を最大限高めることを目標とする。一方、English Medium Instruction (EMI) は、広義では ELF (国際共通語としての英語) による高等教育における授業運営を指す。以下は筆者が構想する CLIL と EMI の連動による小中高大社会を一貫した英語教育モデルである。通常の英語授業との併存により総合能力を有する学習者を育てたい。

初等英語教育 ⇒ 中等 (中高) 英語教育 ⇒ 高等 (大学) 英語教育 ⇒ 実社会
 CLIL (Soft) ・ ・ ・ ・ CLIL ・ ・ ・ ・ ・ EMI (Soft) ・ EMI ・ ・ ・ ・

平成 30 年度 東京都教育委員会の取組み

～新学習指導要領の適正な実施に向けて～

東京都教育庁指導部義務教育指導課 統括指導主事 窪田 香

新学習指導要領が平成29年3月に公示され、中学校においては全面実施の平成33年度までが移行期間となります。

小学校においては、第3・4学年に外国語活動、第5・6学年に教科としての外国語が新たに示され、新学習指導要領の内容を移行期間に一部学んだ生徒が来年度からは中学校へ入学してきます。また、高等学校においては、平成32年度に、大学入学者選抜改革として民間の資格・検定試験を活用した4技能評価の実施が予定されています。そんな両校種の間中に位置する中学校では、小学校と高等学校とをつなぐ要として、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を授業の中心に据える」、「授業を実際のコミュニケーションの場面とするため授業は英語で行うことを基本とする」、「生徒が即興で英語によるやり取りを行う力を育成する」、といった指導方法の根本的かつ大きな改善が求められています。

こうした状況を踏まえ、東京都教育委員会では昨年度から3年間をかけて、すべての中学校の英語の先生方を対象とした新学習指導要領に向けた指導・評価の在り方をテーマとした研修会「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための研修」を夏季休業中に実施し、本年度は2年目として、研修を実施いたしました。本研修の開催に当たりましては、国分寺市立第二中学校 重松 靖 校長先生、武蔵野市立第五中学校 刀根 武史 校長先生に御講演いただいたこと、東京都中学校英語教育研究会の先生方、指導教諭等の先生方にワークショップの企画・運営に御協力をいただいたことに改めて感謝を申し上げます。

また、新学習指導要領の趣旨に基づく中学校英語教育の円滑な実施、小学校との連携を図った中学校英語教育の充実を目指して、平成29年度から2年間にわたって中学校英語教育推進モデル地区に足立区及び昭島市を指定し、2地区には本事業の推進に御尽力いただきました。その成果報告会を2月に行うとともに、本事業報告書冊子を各学校に配布しました。本冊子には、新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導に向けて、小学校と中学校の接続を意識した指導の工夫などが、具体的な事例とともに掲載されています。本報告書の成果がそれぞれの地区や学校で活用されることを通じて、外国語教育における小学校と中学校の相互理解が深まるとともに、小学校と中学校の連携を通じて、外国語教育がより一層推進されることを期待しています。

平成31年度は国の中学校外国語科の移行期間における語彙の増加に対応した指導資料を踏まえた帯活動、全国学力・学習状況調査における「話すこと」調査、都立高校入学選抜調査への「話すこと」調査の導入に向けたプレテストの実施など、中学校外国語、特に「話すこと [やり取り]」に関連する様々な動きがあり、中学校における外国語教育は本年度に増して注目を集めることになるでしょう。義務教育指導課では国と区市町村都教育

委員会・学校との橋渡しができるように、努力して参ります。都中英研の皆様、そして今この冊子を手にとっている先生方とともに東京都の外国語教育を大きく前進していければと思っています。

「中学校英語教育推進モデル地区事業成果報告会」(平成31年2月20・26日実施)配布資料より

足立区版 英語力向上の要素まとめ (英語力が向上した学校・英語科・教員に共通していること)

教職に対する使命感	(英語) 教育を通して実現したいことがある (自分のミッションをもって)	<ul style="list-style-type: none"> ・(英語) 教育を通して、子どもの人生や生き方につながるような影響を及ぼしたいと考えている。 ・(英語) 教育を通して、子どもに「何ができるようになってほしいか」について自分の考えや思いがある。
目 標	英語力目標イメージを英語科で共有・活用している	<ul style="list-style-type: none"> ・「英語でできるようにしてほしいこと」を英語科の一人一人がもっている。 ・学校CAN-DOと学年・単元・各授業目標をつなげてイメージし、英語科内で共有している。
指 導	<p>外国語学習の原理・原則を踏まえた指導を行っている</p> <p>インプット（聞くこと／読むこと）をたくさんさせる</p> <p>アウトプット（話すこと／書くこと）を継続してさせる</p> <p>文法の定着も重視している</p> <p>小学校と円滑に接続している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校目標の達成に向けて、学年・単元・各授業の指導を工夫している。 ・アウトプットの前に十分なインプットを行っている。 ・「知識（文法）」と「聞く・話す・読む・書く」力の育成が連携している。 ・目的に合わせて教科書の素材やコーナーをうまく使っている。 ・活動に「なぜ行っているのか」の目的がある。 ・リアリティのある場面設定を行っている。 ・子どもが英語を使ってみようという態度や意識の育成を重視している。 ・子どもが自分で感じたり考えたりできるようにしている。 ・内容理解のためのインプット、内容理解したものの繰り返しインプットをさせる。 ・教科書本文の「聞く」「読む」をたくさんさせる。 ・教科書の「聞く」「読む」のコーナーの活動をたくさんさせる。 ・子どもが意味がわかっていることをたくさんアウトプットさせる。 ・短い時間でも継続してアウトプットさせる。 ・自分に関することをアウトプットさせる。 ・教科書の「話す」「書く」のコーナーの活動をたくさんさせる。 ・正しさが十分でなくても、アウトプットさせる機会を作る。 ・文法は「どういう場面で使われるのか」を意識して導入する。 ・継続的なインプット／アウトプットを行いながら、必要なタイミングで文法知識の整理を行う。 ・小学校で触れたことのある文法や単語を認識している（小学校の教材を見ている）。 ・活動の中で、小学校で触れたことのある文法や単語を思い出させる。 ・小学校でできるようになっていることを子どもの様子を通して捉える。 ・活動の中で、小学校でできるようになっていることを改めて使わせる。
評 価	評価方法・観点・規準等を英語科で共有している	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストを英語科全体や複数の先生で一緒に検討したり共有したりしている。 ・ペーパーテストやパフォーマンステストの内容、評価観点や評価規準を英語科全体で議論・設定している。 ・小テストや日々の見取りにおける評価観点や評価規準を共有している。
	PDCAサイクルを回している	<ul style="list-style-type: none"> ・目標（学校CAN-DO、学年・単元・各授業目標）に対して達成状況を振り返り、次に改善するというPDCAサイクルを回している。 ・目標（学校CAN-DO、学年・単元・各授業目標）が達成できたかどうかを、様々なタイミングと評価方法（定期テスト、ペーパーテスト、パフォーマンステスト、小テスト、日々の見取りなど）で確認し、必要なアクションを起こす。（学検通過率や検定試験結果だけではない。） ・「英語でできるようにしてほしいこと」に対して、できているか、できるようにするためにどうするかを英語教員同士で話す。
同僚性	<p>強い使命感をもって行動する教員（エッセンシャルティーチャー）が英語科のチームワークにいい影響を与えている</p> <p>英語科のチームワークがうまく機能している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エッセンシャルティーチャーが子どもの英語力向上や成長に対して高い志や目標をもち、(英語) 教育の在り方や指導改善に関して研究や研鑽を重ね、PDCAサイクルを回す指向性が強い。 ・エッセンシャルティーチャーが周りの教員に何らかのプラスの影響を与える。 ・形は様々であるが、エッセンシャルティーチャーは自ら研究を続け、すべての関係者（教育委員会・指導教員・管理職・同僚・生徒）や機会から学び続け、成長し続けている。 ・英語科として同じ目標（「目標」参照）に向かっている。 ・英語科内のコミュニケーションがよくとれている。 ・お互いを尊重し合い、学び合いや教え合いをして、課題解決しようとしている。 ・指導全般に関する議論、様々な情報共有（生徒の状態、指導方法など）が充分に行われている。 ・チームの人数や年齢・経験の構成は様々でもエッセンシャルティーチャーがチームワークにいい影響を与えている。
教員の資質・能力	<p>子どもの成長に最善を尽くしている</p> <p>人生における経験や出会い、教育の変化を教育観や指導観醸成の糧や成長の機会点としている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長をテストの結果などだけから捉えていない。（「教職に対する使命感」参照） ・子ども自身に興味・関心をもち、寄り添う。 ・子どもの成長に限界を設けず、伸びしろを最大限に発揮させようとする。 ・子どもの成長に喜びを感じる。 ・子ども一人一人の授業の理解や技能の実践レベルを日々の授業の中で捉え続けている。 ・よりよい指導を実現するために、新しいものを取り入れたりして、試行錯誤をしながら、PDCAサイクルを回し続ける。 ・実際に英語を使って、仕事や勉強をしたり人間関係を築いたことがある。 ・恩師やよき先輩・仲間との出会いや家族が、教育観・指導観に影響を与えている。 ・日々の教員生活の中で、指導教員・管理職・同僚・生徒などから学び、成長し続けている。 ・教育の変化（教育改革・学習指導要領・自治体の施策など）の意図を敏感に、かつ正しく理解し、そこでの子どもにとっての価値を見出し、自らの成長と指導改善などに役立てている。

東京都教職員研修センターにおける 外国語（英語）に関する研修について

東京都教職員研修センター 統括指導主事 中谷 愛

東京都教職員研修センターでは、都内の公立中学校（都立中学校、中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校を含む）の英語科の教員を対象に、指導力向上と英語力向上の二本立てで専門性向上研修を実施しています。平成30年度に計画・実施した講座を以下のとおり紹介します。

1 指導力向上を目指した研修

(1) 文部科学省事業に関連した研修

①英語教育推進リーダー中央研修

教員が、一定期間勤務地を離れて中学校における英語教育推進リーダーを養成するための研修です。研修修了者は、英語教育推進リーダーとして、各地域で中学校の英語担当教員等を対象とした研修や授業及び評価の改善のための指導・助言を行っています。

②英語教育推進リーダー中央研修還元研修

英語教育推進リーダーが、中央研修の成果普及を目的として、全14時間のプログラムを4～6回程度で実施する研修です。対象は、区市町村立中学校（都立中学校及び中等教育学校前期課程、義務教育学校後期課程を含む）の英語科全教員で、平成31年度末までに受講することが義務付けられています。

<研修内容>

- 「話すこと」に係る言語活動 ○ 教室英語 ○ 自己関連性
- 語い・表現に係る言語活動 ○ 「書くこと」に係る言語活動
- 「読むこと」に係る言語活動 ○ 「聞くこと」に係る言語活動
- コミュニケーションを支えるための文法

③外部専門機関と連携した英語指導力向上のための教員研修

英語ネイティブ・スピーカーによるオールイングリッシュの指導により中学校の英語科教員の指導力と指導に必要な英語力の向上を目指す研修です。生徒の英語によるコミュニケーション能力を伸ばすことを主眼に置いた授業を行う力と、研修成果を所属校の英語科教員に還元する力の育成を図ることをねらいとしています。

(2) 大学と連携した研修

①英語 I A 「授業づくりの基礎・基本」

中学校学習指導要領の目標及び内容等を理解し、基本的な授業展開や指導方法、学習評価について学びます。

第1・2回講師：東京家政大学 教授 太田 洋 先生

②外国語活動Ⅱ「教科化に向けた小学校外国語教育の在り方」

中学年から高学年までの系統的な指導の在り方について学びます。

第1回講師：上智大学 特任教授 吉田 研作 先生

③外国語Ⅱ「コミュニケーションを図る基礎を育成する指導の充実」

小学校から中学校までの系統的な指導の在り方について学びます。

第1回講師：広島県立教育センター 副所長 平木 裕 先生

④英語ⅡA「コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導の充実」

五つの領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導方法や授業づくりについて学び、中学校英語の指導力の向上を図ります。

第1回講師：玉川大学 教授 日臺 滋之 先生

⑤英語ⅡB「生徒の英語力向上を図る指導の在り方」

中学校における英語教育の今日的な課題とこれからの指導の在り方について理解し、小学校や高等学校との円滑な接続を図る指導について学び、中学校英語の指導力の向上を図ります。

第1回講師：文教大学 教授 阿野 幸一 先生

⑥英語ⅢA「ALT等を活用した授業のねらいと実践」

中学校における効果的なネイティブ・スピーカーの活用や授業の工夫などについて学び、英語教育を推進する力を高めます。

第1回講師：東京学芸大学 准教授 白倉 美里 先生

⑦英語ⅢB「TESOL等を用いた英語の授業とねらいと実践」

海外派遣者の実践報告等を通して、TESOL等の指導法を学び、英語教育を推進する力を高めます。

第1回講師：上智大学 教授 和泉 伸一 先生

2 英語力向上を目指した研修

(1) 外部委託者所属の外国人講師等による英語力向上研修

①「英語力向上集中講座」(全3回)

外国人講師等との英語による会話等を通して、「話す力」を高めます。

②「英語カフェテリア講座」(全6回)

外国人講師との会話等を通して、「話す力」と「書く力」を高めます。

③「英検(準1級・1級)取得支援講座」(全7回)

英語検定試験(準1級・1級)を取得することを目標として、実践的な英語力を高めます。

④「TOEIC(730点・860点)突破支援講座(中・高等学校)」(全5回)

TOEIC L&R(730点以上・860点以上)を取得することを目標として、「聞く力」「読む力」を高めます。

3 平成31年度の研修について

平成31年度の研修内容は、「平成31年度研修案内」又は「マイ・キャリア・ノート」を御覧ください。

東京教育実践研究センター 平成30年度
英語力向上研修

研修の目的
「話す力」「書く力」を高め、実践的な英語力を高める。

研修内容
①「英語力向上集中講座」(全3回)
②「英語カフェテリア講座」(全6回)
③「英検(準1級・1級)取得支援講座」(全7回)
④「TOEIC(730点・860点)突破支援講座(中・高等学校)」(全5回)

申し込み方法
「マイ・キャリア・ノート」にて4月23日から開始(先着順)

【英語力向上研修チラシ】



専門教育向上課キャラクター「ヲゴジョ」

やり取りの質を高める外国語指導の工夫 ～質問する力の向上を通して～

東京都教育庁指導部義務教育指導課 統括指導主事 窪田 香

I 研究の概要

本研究では、研究開発委員会の共通テーマである「主体的・対話的で深い学びを実現するための指導方法及び教材開発」に基づき、「深い学び」の鍵とされている「見方・考え方」に注目し、「相手に配慮しながら目的や場面、状況等に応じて自分の考えなどを伝え合うことのできる生徒」の育成を目指した。

話の切り出し方や質問の仕方を身に付けさせ、会話の流れに応じて関連する多様な質問が即座にできる生徒の育成を目指し、指導方法・教材を開発した。

II 生徒の質問する力を高めるための指導の流れについて

(1) 準備（語彙・表現・文法事項等を身に付ける）

教師が日常的に英語でのやり取りを中心に据えた授業を行うとともに、教科書本文の読解後等には、本文で使われている対話や文章をやり取りのトピックとして扱うことで、単元内容、表現の定着を図りつつ、やり取りする力を育成するようにする。

(2) 練習（既習事項を繰り返し活用）

日常生活のことや学校行事のことなど、実生活に基づいた生徒が自己表現しやすいものをトピックにし、生徒にやり取りさせる。相手意識をもった自然なやり取りとなるように、事前にリアクションすることや、追加の情報を付け加える、質問を返すなどして会話を継続するように生徒に伝える。

やり取りさせる際には、学年の実態に応じて時間の設定を変えたり、応答の往復回数を指定したり、単文ではなく複文で答えるなど条件を指定することで、より会話の量を増やすことを心がけさせる。また、生徒に「伝える内容が思い浮かばない」という課題が見られる場合はトピックに対して何を話すか考える短い時間を設けることで、会話が進まないことを解決することができる。

(3) 改善（生徒自身の省察と教師の支援）

やり取り後、生徒自身がペアになって会話の質を高めるために必要なことを話し合う時間を設け、振り返らせるとともに、教師がよりよい会話にするために必要なことや言いたいと言えなかった表現などを出させ、既習表現での表現方法を示す等、フィードバックを行い、生徒が意識的・主体的に自己の会話を改善できるように支援する。リフレクションシートを活用して振り返らせると、やり取りの途中で一度フィードバックする時間を設けて、教師がモニターする中で見られた共通の課題を示し、解決方法を考えさせた後に、もう一度やり取りさせることも効果的な改善につながる。

(4) 実践（即興的に対話する目的・場面を設定した活動）

例えば単元の終わりにパフォーマンステストなどを行い、授業において積み上げた力を測る機会を作る。達成度を確認させ、次のサイクルにつなげる。

Ⅲ 生徒の質問する力を高めるための教材例

↓第一学年で基本的なやり取りを定着させるためのシート例(Q&A シート)

1年英語 U1～U5 英語で「やり取り」しよう！～会話で使って覚えよう！～		1- 氏名：	
場面	日本語質問文	英語質問文	英文応答例（下線部を覚えて）
授業でやり取りする時に	1 あなたは元気？	How are you (doing)?	I'm <u>fine/good/tired/hot/hungry.</u>
	2 天気はどう？	How is the weather today?	It's <u>sunny/cloudy/rainy/snowy.</u>
	3 今の時間は？	What time is it (now)?	It's <u>10:30.</u>
	4 今日の曜日は？	What day is it today?	It's <u>Friday.</u>
	5 今日の日付は？	What is the date today?	It's <u>September 3.</u>
	6 いくつピンゴある？	How many bingos do you have?	I have <u>three</u> bingos.
	7 あなたは（地図上で）どの都市にいる？	Which city are you at (on the map)?	I'm at <u>New York.</u>
相手の事を知るために	8 あなたの名前は「何」？	What's your name?	My name is <u>Takashi Nemoto.</u>
	9 あなたのニックネームは「何」？	What's your nick name?	My nick name is <u>Nemokun.</u>
	10 あなたは「どこ」出身？	Where are you from?	I am from <u>Ibaraki.</u>
	11 あなたの誕生日はいつ？	When is your birthday?	My birthday is <u>October 15.</u>
	12 あなたはなにかペットを飼ってる？	Do you have any pets ?	Yes, I do. / No, I don't.
	13 あなたの1番好きな教科は「何」？	What is your favorite subject?	My favorite subject is <u>English.</u>
	14 あなたは「何種」にはいってる？	What club are you in? / What team are you on?	I'm in the <u>drama club.</u> / I'm on the <u>soccer team.</u>
	15 あなたは「何人の兄弟・姉妹」がいる？	How many brothers and sisters do you have?	I have <u>1 brother and 2 sisters.</u>
	16 あなたは「何のたべもの」が好き？	What food do you like?	I like <u>cheese cake.</u>
	17 あなたは「何のたべもの」がきらい？	What food don't you like?	I don't like <u>green peppers.</u>
	18 あなたは何が好き？	What do you like?	I like <u>youtube movies.</u>
	19 あなたは毎日～を【 】する？	Do you [watch/play/practice] ~ every day?	Yes, I do. / No, I don't.
	20 あなたはとくいなことは「何」？	What are you good at?	I'm good at <u>baseball.</u>

【使い方】 ペアを組み、相手に「英文質問文」をすばやくたずね、または「英文応答文例」をすばやく応じられるように練習しよう。
 ※1年生のUnit 1～5までの130文中、疑問文は27文だけ。教科書本文の練習だけでなく、その他のやり取りで疑問文を意識して使用しないと、質問力が伸びないぞ！ファイト！

↓リフレクションシート例

Reflection sheet
Date: _____
Class No. Name _____

Task1 今日の授業を振り返り、該当する数字に○をつけたりしよう。

	4 (Good)	3	2	1 (Not good)
1 学習の目標を達成することができた。	4	3	2	1
2 会話のやり取りを満足することができた。	4	3	2	1
3 会話のやり取りで、リアクションや相づちなどをしたり、視線や表情、声のトーン、態度等に気を付けたりして、満足感を感じることができた。 【今日使ったこと】(複数可)	4	3	2	1
①リアクション ②相づち ③視線 ④表情 ⑤距離 ⑥声の大きさ ⑦声のトーン ⑧態度				
4 会話のやり取りで、相手の発言を受け、相手の言葉をくり返したり、適切な質問をしたりして、満足感を感じることができた。 【今日使ったこと】(相手の意図に対して、くり返した表現や質問)	4	3	2	1
5 会話のやり取りで、プラスアルファの情報を付け加えたりして、満足感を感じることができた。 【今日使ったこと】(複数可)	4	3	2	1
①プラスアルファの情報(2文、3文) ②その他()				

Task2 会話のやり取りで、使いたかったけど、使えなかった表現や単語を日本語で書いてみよう。また、辞書等を使って、英語で書こう。

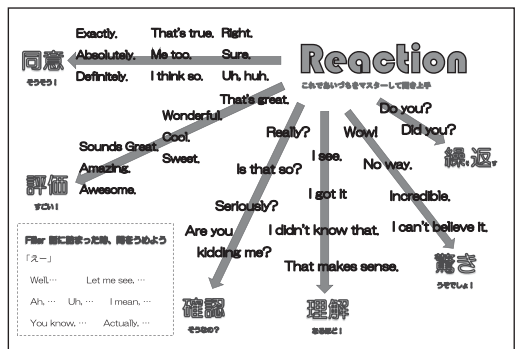
Expression	Word	英語
(日本語)	日本語	英語
(英語)		

次の一言に続く質問からやり取りを始めよう

I have a pet.

What	What animal do you have?
Who	Who brought it home?
Where	Where did you meet it?
When	When did you get it?
Why	Why don't you have another pet?
How	How long have you had it?

↑実生活に基づいた生徒が自己表現しやすいものをトピックとした例



↑リアクションを定着させるための教室掲示例

※詳しくは、年度末に東京都公立各中学校へ配布される冊子にてご確認ください。

IV 研究構想図

＜中学校学習指導要領解説外国語編（平成29年7月）で指摘されている課題＞

- 文法・語彙等の知識を身に付ける点に重点が置かれ、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が適切に行われていない。
- 「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動が十分ではない。
- 読んだことについて意見を述べ合うなど、複数の領域を統合した言語活動が十分に行われていない。
- 習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現できない。

＜研究開発委員の所属校での生徒の実態＞

- 発話したいと思っている内容に合わせて即興的に既習の必要な文法と語彙を活用して発話できない。
- 既習の簡単な表現で言いかえて英文を即興的に作ることができず、「話すこと」について取り組ませると、型にはまった定型文を言い合うことで会話が終わってしまい、相手に合わせて質問を返すなどして会話を継続させることができない。

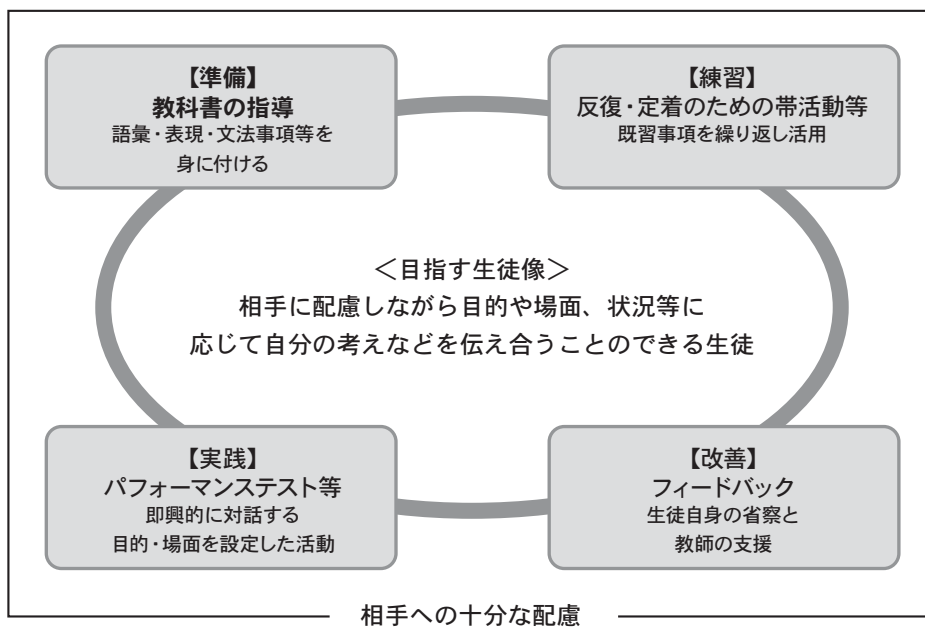
＜研究仮説＞

目的・場面や状況等を設定し、必然性がある状況で、既習の表現やつなぎ言葉等を繰り返し活用させる経験を積み重ねれば、相手に配慮しながら自然な形で質問し、質の高い会話を継続できる力が育成され、やり取りの質が高まるであろう。

＜研究主題＞

やり取りの質を高める外国語指導の工夫
～質問する力の向上を通して～

＜研究内容＞



英語を用いて生徒が主体的に 話せるようにするための指導の工夫

東京都教育庁指導部義務教育指導課 指導主事 早川 裕之

I 研究の概要

本研究員の所属校では、「『話すこと』の活動を行う際、『何を話したらよいか分からない』、または、自分の話したい内容を『どのように話したらよいか分からない』ために、主体的に活動に取り組めていない。」という生徒の課題が見られた。その解決に向けて、本研究では指導方法の工夫・改善を図った。その際、教育研究員の共通研究テーマである「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」を踏まえ、本研究では、「主体的に話す」を「話すことに興味や関心をもち、自分の考えや気持ちをどのように話すか見通しを立て、話す活動に粘り強く取り組み、話した内容を振り返って、次の話す機会につなげる。」と定義した上で、「英語を用いて主体的に話すことができる生徒」の育成を目指した。

II 研究の柱

生徒が「英語を用いて主体的に話す」ことができるようにするため、指導方法の工夫を三つの「研究の柱」として設定した。

(1) 研究の柱① 学習の見通しを立てさせ、振り返りを促すための指導の工夫

単元の学習到達目標を生徒に明確に示し、教員と生徒がゴールイメージを共有するとともに、生徒の振り返りを促すようなワークシートを開発・活用することで、生徒が次に話す機会に振り返りの内容を生かしていくことができるようにする。

(2) 研究の柱② 「話すこと」の活動へ興味や関心をもたせるための指導の工夫

「話すこと」の活動のテーマや場面設定を工夫したり、単元のゴールとの関係を明確にした活動を単元を通じて計画的に設定したりすることにより、生徒が「話すこと」の活動へ積極的に取り組めるようにする。

(3) 研究の柱③ 既習事項を活用させるための指導の工夫

帯活動として、やり取りを継続するために必要な語彙や表現、文法事項等の定着を図るQ&A活動と、これらの既習事項等を活用して即興でやり取りを行うチャット活動を行う。また、「話すこと」の活動後のフィードバックの方法を工夫することで、生徒が自分の考えや気持ちを適切に話すことにつながるようにする。

III 具体的な工夫・改善の内容

ここでは、生徒が単元の目標（ゴール）を理解するとともに、何ができるようになったか振り返ることで、主体的に「話すこと」の活動に取り組めるようにするための指導の工夫について紹介する。

(1) 「Idea Note」の作成と活用

単元のゴールとなる活動の具体例と、そこで活用できる英文等を記録しておくための記入欄を記載した「Idea Note」を作成した。「Idea Note」には、生徒が常に単元のゴールイメージを意識できるよう、単元のゴールとなる活動の具体例を記載し、授業においては、教師とALT等による実演等によって生徒がゴールイメージを確実に理解できるようにした。さらに、各授業の学習内容と単元のゴールとなる活動のつながりをSTEPで示し、生徒が見通しをもって「話すこと」の活動に取り組むことができるようにした。各授業において単元のゴールを達成するために必要な語彙や表現、英文を学習した際には、生徒自身が主体的に記録できるようにしている。

↓ 「Idea Note」の例(第1学年)

Idea Note	
目標：訪れた場所で、時刻や場所をたずねることができる。 (単元のゴールでは、旅行などで訪れた場所について以下のような会話をを行います。)	
あるショッピングモールでの会話	
お客さん：Excuse me. <u>Where is a restaurant?</u> (STEP 3) I'm hungry.	
従業員： <u>Which do you like, Japanese food, Chinese food or Western food?</u> (STEP 2)	
お客さん：I like Japanese food. <u>Where are Japanese food restaurants?</u> (STEP 3)	
従業員：They're in Zone A.	
お客さん：I see. <u>What time do they open?</u> (STEP 1)	それぞれの英文が、どのSTEPで学べるかを示しています。
従業員：They open at 11 a.m.	
お客さん：Thank you.	I see. やOK. など、あいづちもはさんで会話を行いましょう。
単元のゴールである「訪れた場所で質問する活動」に向けて、あなたが授業の中で聞いたり、話したり、読んだりした英文で「これは使えそう!」と思う英文を記録しておこう。	
○ (STEP 1)	訪れた場所で、時刻をたずねるときに活用できそうな英文
	<input type="text"/>
○ (STEP 2)	食事について、好みをたずねるときに活用できそうな英文
	<input type="text"/>
○ (STEP 3)	訪れた場所で、場所をたずねるときに活用できそうな英文
	<input type="text"/>
○ (GOAL)	ペアでお客さん役と従業員役を演じて会話をします。

(2) 「振り返りシート」の作成と活用

単元の目標及び単元を通じて学習する内容と計画(それぞれの内容を学習する順序等)を記載し、生徒が単元の学習の全体像を把握できるような「振り返りシート」を

作成した。単元の目標を「～することができる」という形で示すとともに、その目標の達成のために、どのような活動に取り組んでいくか、単元の各授業、各活動の位置付けが明確になるようにしている。こうすることで、生徒は学習の見通しを立てるとともに、振り返りを行う際には単元の目標及び本時の目標に基づいて振り返りを行うことができる。

「振り返りシート」を生徒に活用させる際には、①単元の第1時に単元の目標を提示し、この単元で何ができるようになるのかを生徒に理解させるとともに、各授業の内容と単元のゴールとなる活動のつながりを確認させる。②単元の第2時以降の授業では、最後の5分程度、振り返りを行う時間を設定し、本時の目標に基づいて、本時でできたこと、次の授業でできるようになりたいことを振り返らせるようにする。

↓ 「振り返りシート」の例(第2学年)

Lesson 4 の流れ

○この単元の目標

GOAL	東京の好きな場所や名所について海外の方に紹介できる。
STEP 3	Lesson 4 Part 4 look + 形容詞、sound + 形容詞の使い方を理解し、東京にあるものや名所の様子を紹介できる。
STEP 2	Lesson 4 Part 2, 3 There is / are ~の使い方を理解し、東京にあるものや名所について表現したり、相手にたずねたりすることができる。
STEP 1	Lesson 4 Part 1 動名詞の使い方を理解し、東京で楽しめることなどについて紹介できる。



○この単元の内容と各授業の振り返り、次の授業に向けた改善点

	各授業の目標	授業の中でできたこと	次の授業でがんばりたいこと
1	自分の好きな行動の表し方を理解する。		
2	東京でできる好きなことや楽しめることを話したり、書いたりできる。(STEP 1)	活動への取組： ① ② ③ ④	
3	もや場所がどこにあるかの表し方を理解する。		
4	東京の好きな場所や名所を話したり、書いたりすることができる。(STEP 2)	活動への取組： ① ② ③ ④	
5	もや場所がどこにあるかたずねる言い方と答え方を理解する。		
6	東京の好きな場所や名所をたずねたり、答えたりすることができる。(STEP 2)	活動への取組： ① ② ③ ④	
7	もや場所の様子の表し方を理解する。		
8	東京の好きな場所や名所の様子について話したり、書いたりできる。(STEP 3)	活動への取組： ① ② ③ ④	
9	Lesson 4 の内容を生かして、東京の好きな場所や名所、楽しめることなどを話すことができる。		
10	東京の好きな場所や名所を紹介し、相手に質問することができる。また、それに答えることができる。(GOAL)	活動への取組： ① ② ③ ④	

※「活動への取組」：① 積極的にできた。 ② 少し積極的にできた。
③ あまり積極的にできなかった。 ④ 積極的にできなかった。

※詳しくは、年度末に東京都立各中学校へ配布される冊子にて御確認ください。

IV 研究構想図

【中学校学習指導要領解説外国語編（平成 29 年 7 月）で指摘されている課題】

- 「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が適切に行われていない。
- 「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動が十分ではない。
- 生徒が、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現することに課題がある。

【生徒の実態】

「平成 29 年度英語教育実施状況調査」（文部科学省 平成 30 年 4 月）
東京都における「英検 3 級以上相当の英語力を有すると思われる生徒」の割合は 51.6%
→ 国の目標の 50% 以上を上回っているものの、依然として約半数の生徒に課題

【本研究員の所属校における生徒の課題】

- ① 学習の見通しを立てたり、学んだことを振り返ったりする機会が十分でないため、何を話すべきか見通しが立たず、生徒が「話すこと」の活動に主体的に取り組めていない。
- ② 「話すこと」の活動のテーマや、活動の位置付けを十分に理解できないため、何を話したらよいか明確にできず、生徒が「話すこと」の活動に意欲的に取り組めていない。
- ③ 既習の語彙や表現、文法事項等を活用して即興で話す機会が十分でないため、英語で話す際に自分の伝えたい内容をどのように話したらよいか分からず、生徒が「話すこと」の活動において自分の考えや気持ちを適切に話せていない。



【研究主題】

英語を用いて生徒が主体的に話せるようにするための指導の工夫

【教育研究員共通研究テーマ】「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

【研究仮説】

単元を通じて学習の見通しを立てさせ、振り返りを促すための指導を行いながら、「話すこと」の活動へ積極的に取り組む意欲を高める指導、既習の語彙や表現、文法事項等を活用して即興でやり取りさせるための指導を継続して実施すれば、英語を用いて主体的に話すことができる生徒が育成されるだろう。

【研究の柱①】学習の見通しを立てさせ、振り返りを促すための指導の工夫

- 生徒が学習の見通しを立て、振り返りを行うことができる「振り返りシート」の開発・活用
- 単元のゴールを生徒に明確に提示するとともに、単元のゴールとなる活動で活用できる英文等を生徒が記録する「Idea Note」の開発・活用

【目指す生徒像】

英語を用いて主体的に話すことができる生徒

【研究の柱②】「話すこと」の活動へ興味や関心をもたせるための指導の工夫

- コミュニケーションの目的、場面、状況等を明確にし、テーマの設定を工夫したりした単元のゴールとなる活動の設定
- 単元のゴールとなる活動との関連を明確にした上で、そこで重要となる語彙や表現を学習する「STEP の活動」の設定

【研究の柱③】既習事項を活用させるための指導の工夫

- 帯活動として「既習事項の定着を図る Q&A 活動」及び「自分の考えや気持ちを即興で話し、やり取りを継続するチャット活動」の実施（Q&A 活動・チャット活動の充実）
- 共通した誤りを学級全体で共有する等のフィードバックの工夫

“Jimmy Valentine”

足立区立千寿桜堤中学校 主任教諭（理科） 鈴木 真由美
教諭 峯村 雅子

峯村 雅子

本校の英語劇は、3年生の有志によるものである。彼らの演技を見て、「3年生になったら自分もやりたい。」という生徒が多く、オーディションで総勢43名に絞り込んだ。英語で演じることの楽しさを感じてほしいと思い、授業でも1年生の時から頻繁にrole playingを行ってきた。今年度は希望者が多く、オーディションで総勢43名に絞り込んだ。上演作品について担当教員同士で議論を重ね、“Jimmy Valentine”に決定した。この劇は、これまで何度も都大会で上演されている。選ばれたメンバーとはいえ、発音や演技が際立つ生徒は少ない。しかし、非常に素直で真面目なところが彼らの良さである。コツコツと取り組んだことが実を結んだ。以下に本校の具体的な取り組みを記したい。

1. 作品のメッセージを意識する

生徒に台本を読み込ませた後、作品を通して伝えたいことを考えさせた。彼らの出した答えは「人は変われる」というものだった。メッセージどおり、生徒たち自身も作品の仕上がりと同様に重なるように変化していった。脚本に関しては吉澤ひとみ教諭が何度も手直しをし、良いものに仕上げた。

2. 常に演じる

街の人々の演技指導を徹底した。常に台詞を聞き、自然な反応をするように多くの時間を当てた。また、役になりきって人に気持ち伝わるように発音だけでなく、声のトーンやスピード、表情なども繰り返し練習を重ねた。

3. 学校全体で取り組む

英語科教員3人に加え、理科の鈴木真由美教諭が演出を担当、大道具作成には主事さんを始め学年、美術科の先生方にご協力いただいた。

学校全体で取り組ませていただけたことに心より感謝したい。

4. より良いものを作りたい

鈴木 真由美

演出で特に力をいれたのは、オープニングのシーンである。ジミーが宣誓している後ろで、街の朝の風景をストップモーションにした。“I’ve been robbed!”の一言から街が動き出すことで、これから始まるストーリーを印象深いものにした。また、警察官の一人がアナベルに好意を持っているという笑いの場面を作ることで劇に緩急をつけ、ラストシーンが際立つように工夫した。

大道具では、生徒たちが大きな金庫や柱を細部にまでこだわって作った。金庫を中央に置くことでインパクトのある舞台装置になったと思う。

衣装は劇に彩をつけるものなので特にこだわった。時代背景を決めて、街の人々のスカートはアースカラーで統一し、アダムス家の人々は華やかになるようにした。衣装部の生徒たちと教員が試行錯誤し作り上げた。帽子も欠かせない要素になった。

音楽は、難しい心情を表現する上で効果的であり、それぞれのシーンに合うものを選べたと思う。

私は理科教員だが、英語劇に携わることで共に作り上げる楽しい時間を過ごせた。教科を超え、英語劇に参加する教員が増えることを願う。

「伝えたい」という思いの大切さ

大田区立馬込東中学校 主任教諭 堀田 奈梨子

まず初めに、東京都中学校英語学芸大会を運営された関係者の方々に、この場を借りてお礼を申し上げたい。毎年、区の連合学芸会を突破し、この大会に出場することは生徒の大きな目標となっており、スピーチの部、プレイの部を拝見し、感銘を受ける英語科教員も多いことと思う。

今回出場したマーティンくんのスピーチのテーマは、“Don't Judge a Book by Its Cover.”。外国人と日本人の親をもつという自身のバックグラウンドをもつからこそこの体験から、自分の思いを精一杯伝えた。

彼は、その容姿から、「日本語話せる?」、「英語話せるでしょ?」などといった言葉をこれまでたくさんかけられてきたと話してくれた。「羨ましい」という感覚をもつ生徒もいるかもしれないが、彼にとっては「どうしてそんな風に言われるんだろう?」という思いだったようだ。そんな彼は、1年生の頃、英語に対して大変苦手意識をもっていった。彼自身、英語は弱点だったのである。

英語スピーチコンテストについて、生徒に募集をかけ、彼が参加を申し出たときは、私自身大変驚いた。しかし、これが彼にとって大きなチャンスでもあるとも思った。彼が作った原稿は、彼の思いが詰まっており、メッセージの強さを感じた。

10月に行われた、本校での学芸祭でもこのスピーチの場を設けていただいた。その時は、パワーポイントを使用したけど、自分の言いたいことをわかりやすく提示するにはどのようにしたらよいかを悩んでいた。区大会では、自分の思うようなパフォーマンスができず、もうこのスピーチをする機会はないのか、「もっとこのスピーチがしたい!」と残念がっていた。都大会出場が決まった時は、大変喜び、次こそは自分の納得のいくスピーチができるようにと意気込んでいた姿を今でも覚えている。その様子を見て、私も大変嬉しく感じた。

本校での授業の中でも、スピーチ指導については時間をかけている。発音はもちろん、抑揚やアクセント、視線などにも気をつけながら生徒も取り組むようになってきた。区大会に向けて、抑揚と発音の確認を中心に行ったが、都大会に向けては、ジェスチャーを交えながら、自分の思いを表現するための方法を試行錯誤して練習してきた。本番は練習の甲斐があったか、リラックスしてスピーチをしていた。放課後、部活動の合間を見つけては練習を重ね、粘り強く取り組んだ結果が、今回の優勝に結び付いたのだと思う。また、このスピーチの練習を通して、彼の「伝えたい」という思いの強さに感心した。

東京都中学校英語学芸大会出場を通して、彼は英語で何かを伝えることに、自信がもてたことと思う。このような素晴らしい機会を与えてくださったことに本当に感謝を申し上げたいと思う。運営に携わった皆様、本当にありがとうございました。

都中英研・研究部公開授業を終えて

江戸川区立清新第一中学校 指導教諭 関口 智

はじめに

平成 30 年 2 月 23 日に自身 2 回目の東京都中英研研究部の公開授業をさせていただいた。指導講師を引き受けていただいた文教大学教授の阿野幸一先生をはじめ、遠路はるばる本校まで足を運んでくださった先生方、運営してくれた仲間に感謝を申し上げる。

授業に関して

対象学年は 2 年生で、36 名の標準サイズである。

New Crown English Series 2 (三省堂) Let's Read ② “Landmines and Aki Ra” を扱った。単元の最後に「戦争」についてディスカッションをさせたいと考えた。理由は全英連の新潟大会に参加し、高校生が教科書本文の人種差別問題に関して、自分の意見を堂々と述べる姿に感銘を受けたからである。何とか中学 2 年生でもやれる範囲でやらせたいと強く思った。

しかしながら、単元の内容はカンボジアの戦争及び、地雷のことである。これを読んだ後ディスカッションさせても、あくまで他人事で、「戦争はいけない」という言葉のやり取りになってしまうだろう。生徒たちが自分たちの問題として捉え、内面からあふれる気持ちを語れるようにするにはどうすればよいかと思案した。

生徒たちは日本に生まれてよかったと思っている。戦争がなく、平和だと思っている。しかし、本当は日本に生まれてよかったのではなく、現代の日本に生まれたからよかったのだ。もし、同じ日本でも第二次世界大戦中に暮らしていたらどうなっていたかを生徒に投げかけた。もちろんすべて英語である。ビデオを見せたほうがよいのか、それとも写真を見せたほうがよいのかを考えた。ビデオは編集者の意図がはっきりしているのに対し、写真は見るものに考えさせる部分が多いと考え、写真を用いることにした。

- ①原爆ならぬ通常兵器によって、一面焼け野原になってしまった東京
 - ②長崎の原爆で亡くなった弟を背負い、焼き場に立つ少年
 - ③シベリア抑留で、日本に戻れず強制労働させられている日本人
 - ④戦後 30 年以上たっても軍の命令に従い投降せず、ジャングルで見つかった日本兵
- それぞれの写真を見せ、そこで何が起きているかをペアやグループで考えさせてから、なぜそれが起きたのかななどを解説した。

日本の戦争を一緒に取り上げることで、戦争は他人事ではないということを生徒にわからせることができた。生徒の発言の中に「戦争を忘れてはならない!」「戦争の経験を伝えていかななくてはならない!」という声が出てきたことからそれが伺われる。

終わりに

課題があればそれを乗り越えていく生徒たちのすばらしさを感じた。教師に大切なことはこれは無理とあきらめる前に、どうすればやれるかを考えることである。壁を乗り越えることで、生徒とともにこちらも成長させてもらった。本当にありがとう。

教師道場での取り組みについて

足立区立第四中学校 主任教諭 山岸 恒一

1 教師道場の概要

教師道場とは、部員がリーダーや教授の指導のもと授業研究、協議会を通して授業の腕を磨く場である。より良い授業づくりを志す中学校の教員、高い指導力を持ち部員に指導・助言をしてくださるリーダーと呼ばれる先生、リーダーと部員をまとめ指南してくださる教授で“班”を作り、2年間の研修を行う。

毎月1回の授業研究では、授業者が作成した学習指導案を部員とリーダーで検討し、助言し合う。そこで得た助言をもとに学習指導案を修正し、授業研究に臨む。授業後の協議会では「授業力の6要素」や「主体的・対話的で深い学び」といった視点で、授業について分析する。協議を終えた後は、授業研究で作成した指導案に改善を加え、再度指導案を作成して共有する。

部員の授業研究が始まる前には、リーダーの模範授業を見せていただく。そこで自分自身の授業について振り返り、授業改善の指針とする。授業研究の他に、異校種の教員と教材研究や指導方法の協議を行う夏季集中協議がある。さらに、教師道場2年目にはリーダー演習が始まる。部員が授業観察後の協議会の司会・進行を行い、授業者に対して指導・助言する演習である。また、研修の成果の発表として、公開授業がある。教師道場の関係者以外の先生方にも授業を見ていただき、教師道場での学びの実践報告をする。

2 教師道場の取り組み

第一期のテーマは「自己の授業を振り返り、課題を把握する」と設定した。我々、部員は授業に関してある程度の経験があり、知識もあったが、毎時間の授業に対して課題を意識して行うということ是不十分であったため、この班テーマを設定した。第一期の授業研究では、リーダーによる模範授業に始まり、班員による授業研究が行われた。この第一期ではお互いの授業を見て、各自の指導技術や学習指導案の書き方について課題を話し合い、目指したい授業づくりの方向性について協議した。新出文法や教科書本文の導入の仕方、各授業の目標を生徒に示して見通しをもたせること、各活動を意図的計画的に行うこと、学習指導要領を理解し指導内容を把握すること、三年間で育てたい生徒像を意識すること、「主体的・対話的な学び」とはどういうことで、どのように「深い学び」につなげていくか等について話し合った。特に、生徒が主体的に学べるように各授業を振り返らせることや見通しをもたせること、学習指導案の書き方について重点的に学ぶことができた。

第二期のテーマは「ゴールイメージをもった指導と評価の工夫」と設定した。毎時間の授業の目標を意識して授業を行えるようになったが、目標に向けての各活動の意図やつながりの理解が不十分であったり、単元最終目標への各授業の指導の整合性に課題が見つかったりしたので、この班テーマを設定した。第二期の授業研究では、各部員が単元の目標となる言語活動を意識した単元計画を立てて行った。単元のゴールとなる言語活動をあらかじめ設定し、その活動をできるようにするために評価項目や活動を精選し、単元の指導に一貫性を持たせることに取り組んだ。また、協議会を重ねるごとに、授業を多面的に考察する力がつ

いてきたことを実感した。

第二期の後半から始まったリーダー演習では、リーダーがいかに大変であるかということをおも知らされた。個人的には、諸先生方の前で自信をもって自分の意見を言い切ることがいかに難しいかがわかった。「指導的な立場」となるにあたっては自信をもって言い切ることが大事であると学ぶことができた

第三期のテーマは「主体的・対話的で深い学びを意識した指導と評価の工夫」と設定した。二年次より、「主体的・対話的で深い学び」について道場の全教科で取り組み始めた。このテーマについて研鑽を深めることが、最終的に、第二期のテーマに向かって更にその先に行けるのではと部員で考え、このテーマに決定した。ゴールとなる言語活動を設定し、身につけさせたい力を焦点化することに特に力を入れて授業研究を行った。

3 授業力向上における成果

授業力に関わる成果は、大きく分けて3つある。まずは、本文と文法を1時間の間に導入する方法を学んだことである。それまでは文法1時間、本文1時間という流れで授業を組んでいたが、「文法の口頭導入」→「本文の口頭導入」→「本文の習熟」→「言語活動」という流れを学び、本文の流れを活用して文法の導入を考えることに慣れてくると、本文の内容の理解も深まり、音読による習熟を通して文法事項も定着し、よりスムーズに言語活動に移れるようになったと思っている。

次に、「主体的・対話的な学び」についてである。生徒が見通しをもって主体的に学ぶためには、「できるようになったこと」「できなかったこと」「次に向けてどうするか」という3点をしっかりと振り返ることが重要だということをおもった。振り返りを行っていくうちに、具体的に書けるようになってきて、生徒は自分なりの課題を見つめて次につなげようとする意識が見え始めてきた。また、対話を通して新しい気づきが生まれるような発問をしていけるように気をつけるようになった。対話から気づきを得て、次へつなげていく中で「深い学び」が生まれるので、今後も研鑽を重ねる。

最後に、指導目標を「言語活動」に絞るということである。年間を通してどんな力をつけたいかをより明確にし、各単元の中でどのような力をつけたいかを考えて焦点化することで、各授業で目指すべき方向性がより明確になり、生徒も主体的に動けるようになるという話を聞いた時、また新たな視点で授業を改善できるとおもえ、漸く目指すべき方向性が見えた。まだ活動を絞り切れていない部分があるとおもうので、この点についても研鑽を重ねていく。

4 道場での研修を終えて

東京教師道場に参加した2年間で学んだことは多く、大変勉強になった。同じグループの部員が授業をする際には、指導案をあらかじめ検討して推敲し、その結果を授業で実践し、まだ課題があるのでさらに検討するという、とても贅沢な経験ができた。また、異校種間の授業研究も行い、それぞれの校種のよい所を学ぶことができ、相互研鑽をしつつ、小中高の接続も考えることができた。そんな経験をしている中で、授業力についても上記で述べたように向上できたと思っている。

今後は引き続き自分の考えや意見を自由に英語で表現できるようにするという大きな目標を掲げ、単元の目標を明確に定め、授業改善を図っていきたい。また、授業をどのように家庭学習につなげるかの研究も続けたいと思っている。

また、研修で学んだ指導法や指導技術を共有し、広めていきたいとおもう。時間をみつけて授業を見てもらい、教科部会を開いて議論を交わす中で、よりよい授業づくりを目指していきたい。

第42回 関東甲信地区中学校英語教育研究協議会 埼玉大会（報告）
21世紀をたくましく生き抜く日本人の育成を目指した英語教育

～ コミュニケーションを大切にする生徒の育成～

八王子市立横川中学校 校長 佐藤 ひろみ

以下は平成30年11月16日（金）に実施された第42回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会 埼玉大会（第1分科会）の発表に基づいた報告である。

1 大会主題設定の理由（概要）

埼玉県英語教育研究会の実践を基に生徒一人ひとりが主体的にコミュニケーションを大切にする英語教育を進め、21世紀をたくましく生き抜く日本人の育成を目指すために上記の研究主題を設定した。主題に迫る手立てとして「コミュニケーションを大切にする」ことを以下のように明確にした。

①言葉そのものを大切にする

（内容を正確に伝えるための発音、語彙、語順等の文法の定着、文化的背景の理解の深化）

②伝え合う内容を大切にする

（英語の表現と自分の考えや思いを一致させる指導の充実）

③相手を大切にする

（相手意識を高め、言葉の交流が図られる指導の充実）

さらに授業実践の視点を以下のように定め、生徒の育成を図った。

◆統合的な言語活動を通じた表現力の育成

◆学習形態などを工夫し発信力の育成

◆小・中・高の連携を意識した英語学習の推進

2 第1分科会テーマ：統合的な言語活動を通じた表現力の育成

岡谷市立岡谷北部中学校では、以下の視点で改善に向けて取り組んだ。

1. 小中高の接続

小学校と連携して、ミーティングや相互の授業参観をすることで、生徒が英語の学習の抵抗感をなくすようにした。特に、音声面を中心にした英語表現への慣れ親しみを大切にし、読むこと・書くことの活動につなげ4技能の総合的な育成を図るための改善を行った。

2. 複数の技能を統合する言語活動の充実と高度化

埼玉市立桶川西中学校（第1分科会）においては、

①言語の着実な定着

②積極的に伝える指導と伝えたいと思える使用場面の設定

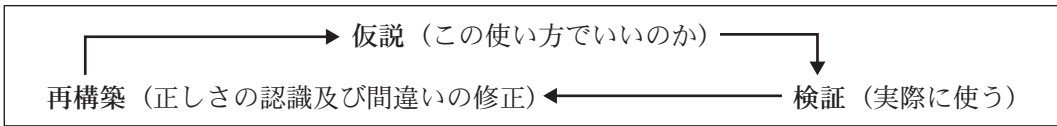
③相手を大切にし、聞き手を意識したコミュニケーションの指導の三点を大切に、発信力強化の授業実践を推進している。

そして以下三点を視点として授業改善に取り組んだ。

(1) Focus on Form と **i + 1** に着目した授業改善

「意味中心の言語理解・産出活動において、特定の言語形式（語彙・文法）の習得を促す」

という Focus on Form の考え方にに基づき以下のような授業作りをする。



また学習者が持っている知識・技能よりも少しだけレベルの高い内容をインプットされると無意識に習得ができるという $i + 1$ の視点で授業を展開した。新出の文法の導入では、活動の中に意図的に新しい文法事項を取り込み、生徒が使い方を予測しながら活動するように工夫した。これにより生徒は既習の知識と新たな情報を統合しながら活動を進めていくことが可能になる。

(2) 相手を意識したやり取り～ Small Talk の習慣化

Small Talk (2minutes chatting) を帯活動だけでなく、本文の学習後のプロジェクト活動の中で実施する。この活動では双方向のやり取りを意識させるために、会話を継続させるために相づちをうつ、相手に質問をする等の練習を行う。またわからないことなどを互いに教え合う時間を設定し、会話の内容を広げたり、深めたりできるような工夫もする。

(3) Story Retelling の実践

教科書本文を Story Retelling《「読む」⇒内容を「伝える・聞く」⇒伝えた・聞いた内容を「書く」》の活動を単元のまとめとして位置付け実践する。

この活動を通して、生徒は4技能を使うだけでなく、意味のある言語活動をするようになる。さらに自分の考えや、エピソードを加えて話すことで自分に関連させた言語活動を行うことができる。書くときには、話すときに使った英語を修正させ正しい英語でより詳しい内容を書くことを心がける指導を行う。この活動を単元のまとめの目標として位置付けた結果、生徒はゴールを意識した学習活動を行うことができる。

3 今後に向けて (第1分科会に参加して)

以上のような視点に立ち、授業者は本時のねらいを「関係代名詞 who を用いた文の意味や用法を理解する」とし、「自分の理想のパートナーについて聞き手を意識しながら積極的に話そうとすることができる。」を生徒と共有して、以下のような授業を組み立てていた。

①導入：Small talk で “Who is your favorite teacher?” をテーマに会話

(繋ぎ言葉を意識させる)

②展開：Small talk での会話を使い、お気に入りの先生について新出文法の関係代名詞 who を使い導入。その後 Mini Reading として4人1組となり、理想のパートナーについての説明文を読み、who の使い方と構文について考えさせる。ゲームやペアワークをしながら理想のパートナーについて口頭練習。その際 $i + 1$ の視点で考えさせる活動 (who の使い方に気づかせる、未習語の使用) を取り入れる。

③まとめ：Mini Writing 自分の理想のパートナーについて書く。

この授業を通して生徒たちには、相手を大切に、相手を意識してコミュニケーションをしようとする態度が見られた。また未習語等があっても自分が「知っていること」「できること」を考え、活用しながら、コミュニケーション活動をする意欲的な姿勢が見られた。

第1分科会においては、日常のコミュニケーション活動における言語の使い方に近い形で言語習得を可能にしていく様々な工夫がみられた。このことは新学習指導要領実施に向け、目指す一つの授業の形なのではないだろうか。

総務部報告

(総務部長 遠藤 哲也)

本年度も全都の地区幹事名簿を6月中に作成し、各地区に配布しました。また、関ブロや全英連の大会案内については、各区市町村教育委員会にお願いし、各校に配布していただきました。

年間事業は右記の通りです。

①定期総会

5月10日(木)に武蔵野市立第五中学校を会場に実施しました。総務部では都中英研各部と連絡を取り合い、総会資料を作成しました。

総会後の記念講演会では、東京都教育委員会 中谷 愛統括指導主事から「これからの英語教育～今、英語科教員に求められる力～」という演題でお話しいただきました。

②全英連中学校部会

全英連から求められた昨年度の活動状況と本年度の役員名簿を作成し、5月末までに提出しました。

③関ブロ埼玉大会第1回理事研修会

埼玉大学附属中学校にて6月27日(水)に開催され、11月の埼玉大会に向けた準備が行われました。東京都からは刀根都中英研会長、佐藤副会長が参加しました。

④地区幹事会

8月22日(水)に武蔵野市立第五中学校にて開催しました。この地区幹事会は、都中英研各部からの報告や各地区の活動状況についての情報交換など事務連絡、顔合わせだけではなく、毎年英語教育の今日的課題をテーマに講師の先生を

招聘しています。今年度は、教育庁指導部国際教育事業担当課 森 晶子課長より「東京都英語村 TOKYO GLOBAL GATEWAYの事業概要について」をテーマに具体的にご指導をいただきました。

⑤関ブロ第2回理事研修会

鴻巣市文化センター(クレアこうのす)にて、11月15日(木)に開催されました。東京都からは刀根都中英研会長と総務部長が参加しました。都中英研から平成31年度開催の第43回東京大会の案を示しました。

⑥関ブロ埼玉大会

11月16日(金)午前、鴻巣市文化センター(クレアこうのす)にて、全体会を開催しました。午後から3つの分科会に分かれて研究協議が行われました。東京都は第1分科会で葛飾区立四ツ木中学校の前田 宏美主任教諭が「統合的な言語活動によって発言力を高め相互交流を楽しむ生徒の育成を目指して～ストーリー・リテリングの実践」を主題に県外提案をしました。

さらに、指導助言者として東京都教職員研修センターの市川 拓治指導主事にお話しをいただきました。

⑦英語学芸大会

12月2日(日)に豊島区立千登世橋中学校の体育館を会場に実施されました。総務部でも受付等のお手伝いをしました。代表生徒のSpeechやPlayは大変レベルの高いものでした。

【年間事業】

- ① 5月 定期総会
- ② 5月 全英連中学校部会
- ③ 6月 関ブロ第1回理事研修会
- ④ 8月 地区幹事会
- ⑤ 11月 関ブロ第2回理事研修会
- ⑥ 11月 関ブロ埼玉大会
- ⑦ 12月 英語学芸大会(都大会)

事業部報告

(事業部長 横山 達也)

1. 第71回 東京都中学校英語学芸大会

日 時：平成30年12月2日(日)

会 場：豊島区立千登世橋中学校

審査員：Ms. Kimiko Nakamura

(元世田谷区立梅ヶ丘中学校長)

Mr. Jun Kodama

(英語検定協会)

Ms. Kamilah Harris

(ALT)

結 果：Speakingの部(参加14校)

1位 Martin Swietynioski

(大田区立馬込東中学校)

2位 安 唯鎮

(品川区立鈴ヶ森中学校)

特別賞 小貫 和

(杉並区立向陽中学校)

Playの部(参加11校)

1位 足立区立千寿桜堤中学校

Jimmy Valentine

2位 都立小石川中等教育学校

A Puppet Show

3位 港区立赤坂中学校

Angels with Broken Wings

特別賞 都立両国高等学校附属中学校

The Secret Garden

今年度も、豊島区立千登世橋中学校を会場として、英語学芸大会を開催することができた。校長先生を始め、教職員の方々のご協力に心から感謝の意を表したい。特に、当日の朝早くからの会場準備や、終了後の後片付けをしてくださった先生方に、お礼を申し上げたいと思う。

また、出場校の先生方にもお礼を申し上げたい。出場した生徒を熱心に指導し、このようなレベルの高い発表を見せていただけて、大変うれしく思っている。スピーキングでは、自分の主張が聴衆に伝わるように、さまざまな工夫が見られた。発表の内容も聞く者の心に訴えていた。プレイでは、登場人物になりきって、感情を込めてセリフを言う生徒が多かった。見ている者をその世界に引き込んでいた。

2. 第34回 授業力アップ研修会

日 時：平成31年1月31日(木)

会 場：渋谷区立松濤中学校

テーマ：対話的な活動を主体とした
教科書指導

授業者：石井 誠 教諭

講 師：野瀬 博 先生

(杏林大学講師、元都中英研

副会長)

松濤中学校は、平成16年度より「渋谷区英語教育重点校」となっている。週2時間は、ALTとのTTがあり、音楽、美術、体育、家庭科の授業も日本語と英語で行われている。また、学校行事でも英語が使われている。

生徒は、英語を使うことにほとんど抵抗がないように見える。教師と生徒、生徒同士の対話を中心として授業が進められた。

15名という少人数クラスのため、一人一人の生徒に目が行き届き、生徒が英語を使う場面が非常に多い授業であった。

講師の野瀬先生からは、新学習指導要領を踏まえて、これからの英語教育が目指すものについて指導をいただいた。コミュニケーション能力の向上だけでなく、小学校英語が変わるのにつれて、中学校でどのように対応していくことが必要なのか、英語科教員が考えなければならない大きな課題である。

調査部報告

(調査部長 大森 博)

1 新コミュニケーションテスト報告

平成30年度中英研調査部の新コミュニケーションテストの実施にあたり、多くの学校にご参加いただいた。また、今年度も研究部員の所属校から多数の参加申込みをいただいたことも大変ありがたいことであった。部長として心より御礼申し上げたい。

30年度の実施状況は以下のとおりである。

第1学年 2,544人

第2学年 2,353人

第3学年 2,064人

総計 6,961人(29年度は5,524人)

人数の大幅な増加は、毎年参加の学校に加え、今年度から参加していただいた学校もあったことによる。特に1年の増加が激しいことから、小学校での英語学習状況を把握したいというニーズによるのではないかと推察される。

【概要】

各学年の領域別結果は以下のようになっている。

<第1学年>

第1学年は、「聞くこと」の領域に絞り、30点満点のテストである。以下は4年間の経年変化である。

30年度	29年度	28年度	27年度
25.2	24.8	24.5	23.9

新教育課程への移行を見据えて、1学年の調査内容を修正する時期に来ている。再来年までは修正を加えずに実施し、2021年の新学習指導要領完全実施に合わせて、新たにする方針である。

<第2学年>

	文法	聞くこと	書くこと	読むこと
配点	30	20	30	20
平均点	17.9	11.4	14.5	12.0
達成率%	29.6	57.1	48.2	60.0

<第3学年>

	文法	聞くこと	書くこと	読むこと
配点	30	20	30	20
平均点	21.4	16.4	14.5	12.4
達成率%	71.2	81.9	48.4	62.1

「書くこと」の達成率が低い傾向は変わっていない。2つの大問があり、与えられた語句を使って2通り以上の答えがある英作文と、与えられたテーマについて3文で答える自由英作文で構成している。

自由英作文では、第2学年は日本に来る留学生への自己紹介、第3学年は海外からの観光客向けの東京案内パンフレット作成というテーマであった。両学年とも、まとまった内容を書けるかどうかを測っているため、文脈ある英文を書くことが求められる。3文は書けるが、それぞれが独立している生徒も少なくない。今後、更に求められる能力であるため、指導と評価の工夫が必要となるであろう。

2 夏期ワークショップ

研究部等の実践を参考に25年度から開始した調査部夏期ワークショップは、6回目になった。今年度も千代田区立九段中等教育学校を会場に実施することができた。

講師に玉川大学の工藤洋路准教授をお招きし、「聞くこと」のテストづくり(2回目)に取り組んだ。問題を改善する時間をとり、オーセンティックなテストに改善できるのか協議し、改善案を作成した。今回はじめて録音作業を取り入れ、改善された問題を発表した。最後に工藤先生、本多敏幸先生(九段中等教育学校指導教諭)より、具体的なアドバイスをいただいた。

3 31年度関東ブロック大会ご案内

来年度は東京での開催となり、調査部として1つの分科会を担当する。新学習指導要領でのペーパーテストのあり方を提案する準備を進めている。ご清聴いただければ幸いである。

4 31年度新コミュニケーションテストご案内

参加費は、第1学年200円、第2,3学年280円で、据え置く予定である。ぜひ、年度当初の予算計上をお願いしたい。

研究部報告

(研究部長 豊島区立千登世橋中学校
伊地知 義信)

1 研究主題

今年度の研究は昨年度までのものがひと区切りついたため、研究主題を「研究部基本語いリスト1200と語い指導再考(1)」とし、研究部内に語いリスト部会と語い指導部会の2つの分科会を立ち上げ、研究を始めた。詳細は研究部の冊子またはホームページをご覧ください。

2 第16回 研究部ワークショップ

今年度も以下の3回を実施した。今年も多くの方に参加していただき、合計224名であった。

第1回 8月1日(水)

千代田区立九段中等教育学校

- ①「生徒の表現力を伸ばすテストの工夫」

島田 朋美

(荒川区立第四中学校)

- ②「話すこと(やりとり)について」

高杉 達也

(千代田区立九段中等教育学校)

- ③「授業の構成・指導手順

(導入・説明～音読)」

溪内 明(文京区立第八中学校)

参加人数 100人 いつもにまして参加者が多く、盛況だった。

第2回 8月8日(水)

豊島区立千登世橋中学校

- ①「次期学習指導要領に向けた授業を考える(2年)」

太田 裕也

(品川区立鈴ヶ森中学校)

- ②「中学校でもできる帯活動、四技能統合型学習の初歩、LSD再考～PDCAを踏まえた指導を目指して～」

森沢 俊彦

(品川区立荏原第五中学校)

- ③「英語の授業で大切にしたい指導」

水嶋 諒

(江東区立第四砂町中学校)

参加人数 55人 台風が近づいてきていたが、昼休みを短縮して、実施することができた。

第3回 8月20日(月)

品川区立荏原第六中学校

- ①「オーラルイントロダクションで授業を変える！ーオーラルイントロダクションの基本と応用」

三上 健二郎

(大田区立出雲中学校)

- ②「『中1ギャップ』解消のリタラシー指導から読解へ」

岡崎 伸一

(品川区立荏原第六中学校)

- ③「習ったら何度も使わせよう！ーピックチャーカードを用いたスピーキング活動」

古川 悟

(品川区立荏原第六中学校)

3 研究部公開授業・研究発表会

2月22日(金)渋谷区立松涛中学校にて、同校の前川卓哉教諭が中学二年の授業を公開した。研究発表は三上健二郎部員が行った。指導講師は国際教養大学大学院教授の内田 浩樹先生をお迎えして、講演をしていただいた。

プロジェクトチーム部報告

(プロジェクト・チーム部長 齊藤 節子)

プロジェクトチーム部では、約5年間、学習到達度の目標、指導と評価の改善をねらいとしてCAN-DOリストの作成とその活用を中心に研究を行ってきた。しかし、今年度より、新学習指導要領の目標に照らし、「新学習指導要領に向けての指導法～CAN-DOリストを活用して～」にテーマを変更し、コミュニケーション力を高める具体的な指導法についての研究を始めた。

1回目の研修会では、プロジェクトチーム部員(2名)による実践報告をした後、東京家政大学 教授 太田洋先生より約2時間、研究テーマに沿った貴重な講義をしていただいた。夏季休業中にも関わらず、88名が参加した。

2回目は、部員がテーマにそった研究授業を行った。講師は、1回目につき東京家政大学 教授 太田洋先生をお招きした。

1, 2回ともに短い時間ではあったが、授業改善に向けてたくさんのヒントを得た有意義な時間となった。

第1回 プロジェクトチーム部研修会

日時：平成30年7月23日(月)

会場：豊島区立明豊中学校

講師：太田 洋 先生
東京家政大学 教授

第2回 プロジェクトチーム部研修会

日時：平成30年9月28日(金)

会場：連雀学園三鷹市立第一中学校

授業者：田中 佳奈 教諭

講師：太田 洋 先生
東京家政大学 教授

出版部報告

(出版部長 今本 由美子)

出版部では、主に「都中英研だより」と「中英研会報」の作成・発行を担当している。今年度、計3回の部会を開催し、「都中英研だより」や「中英研会報」の編集企画会議、校正、発行作業等を行ってきた。今年度、ここ数年行っていた部員による授業公開と意見交換はできなかったが、各部会の際に、情報交換、各自の授業実践の紹介など、部員相互の自己研鑽に努めた。

具体的な活動状況は以下の通りである。

○「都中英研だより」第72号

(平成30年11月22日発行)

会長あいさつ、東京都中学校英語教育研究会地区幹事会の報告と東京都教育庁指導部国際教育事業担当課長の森晶子先生を講師にお招きして行われた講演会、「東京都英語村 TOKYO GLOBAL GATEWAY の事業概要について」の要旨、中英研各部の研修会報告等を掲載した。

○「平成30年度 中英研会報」第77号

(3月上旬発行予定)

都中英研の年間活動や英語教育活動のまとめとして、「今、考えたいこと～新たな時代へ～」、「Learning-centered(学習中心主義)の時代を迎えて」、「平成30年度 東京都教育委員会の取り組み」、「東京都教職員研修センターにおける外国語(英語)に関する研修について」、また、研究開発委員会、教育研究員報告、英語学芸大会報告、東京教師道場報告、各研究大会報告、各地区の活動状況、中英研事業報告、各部活動報告等を掲載する予定である。

第58回 大都市公立中学校 英語教育研究会連絡協議会

名古屋市大会報告

「コミュニケーションを図る資質・能力
の育成 ～アクティブ・ラーニングの
視点から～」

開催日：平成30年10月12日（金）

会 場：名古屋国際センター

副会長 遠藤 哲也

本連絡協議会は、昭和36年に「英語指導の先進的な実践について相互に学び合い自都市の英語教育に役立てる」ことを目的に「六大都市公立中学校英語教育研究会」として発足した。その後、政令指定都市の増加に伴い、現在は東京都及び政令指定都市の21自治体により構成されている。第58回大会では、14都市から各代表が参加した。

1 開会式

大会実行委員長の挨拶に続き、名古屋市教育委員会より名古屋市における①新学習指導要領に向けての取り組み、②全国学力・学習状況調査の予備調査を踏まえた対応、③高校入試におけるスピーキング試験の検討について報告があった。

2 研究協議

大会事務局からの調査報告に続き、情報交換を行った。主な調査報告は次のとおりである。

- 「コミュニケーションを図る資質・能力の育成について、各研究会が力を入れて取り組んでいること」について、1都市以外が「話すこと（やりとり）」をあげた。
- 「アクティブ・ラーニングの視点にたった具体的な取り組み内容」について、「ペアワーク・グループワークなどの学習形態の工夫」との回答が1位（63%）であった。名古屋市「なかまなビジョン」が具体例として紹介された。
- 「小学校で英語学習が始まったことによる中学校英語授業の変化」について、8

割以上が「変化があった」と回答した。変化については、「より積極的になった」「抵抗感がなくなった」との肯定的な意見があった反面、「入学時点で英語学習に興味を失っている」「好きな生徒と苦手な生徒の二極化が進んでいる」との否定的な意見があった。

3 研究協議（実践報告等）

名古屋市立中小田井小学校 藤井裕大教諭による「小学校におけるコミュニケーション能力を測る資質・能力の育成」と題して、児童の意識調査を基に半年間の取り組みについて発表があった。英語の苦手な児童は「理解できないから不安を感じる」「規則性が分からない」と感じる傾向があると報告された。

次に、名古屋市立千鳥丘中学校 返町岳司教諭による「中学校におけるコミュニケーション能力を測る資質・能力の育成」と題して、主に「即興でやり取りする生徒の育成」について発表があった。

「応答する」「1文付け足す」「質問する」「つなぎ言葉を用いる」を手立てとした授業実践の紹介があった。

4 講演

演題：「コミュニケーション能力の育成
を目指して～自律した学習者を
育てる～」

講師： 太田 光春 氏

（名古屋外国語大学外国語学部 教授）

大学での授業の様子紹介から始まり、自律した学習者を育成するために教員が授業において留意すべき事についてご指導をいただいた。「英語の習得は、簡単ではない、学校外でも、卒業しても学ばなければならない」「教師は教えるのではなく、子供から『やる気』『知識』『考え』を引き出すこと」「英語の授業を英語で教えないのは、スキーの技術を板をはかず、滑らずにスキーを教えるようなもの」等、中学校英語教育へ向けて力強いエールをいただいた。

5 閉会式

次期開催都市（京都市）代表挨拶において、今回は平成31年10月11日（金）ホテルセントノームにて開催する、との報告があった。

第68回 全国英語教育研究団体 連合会総会

全国英語教育研究大会 滋賀大会
「Be Active! ～児童・生徒が
主体的に学ぶ英語教育～」

全英連中学部会長 難波 浩明
(足立区立第十四中学校)

1 大会の主題等

平成30年11月16日(金)・17日(土)の2日間、滋賀県において、第68回全英連総会及び全国英語教育研究大会が開催された。

「Be Active! ～児童・生徒が主体的に学ぶ英語教育～」を大会コンセプトとして、小中高の連携の中で、自ら発信し、生涯にわたり学び続ける姿勢を育成する英語教育を探ることが主題であった。

2 総会・記念講演

(1) 期 日：11月16日(金)

会 場：びわ湖ホール 大ホール
滋賀県立芸術劇場

全英連会長 板倉和則校長(都立田柄高校)、大会実行委員長 小野島恵次校長(新潟県高等学校)の挨拶に引き続き、会務報告等滞りなく行われた。

(2) 記念講演

講 師：松本 茂 氏

(立教大学経営学部 教授)

「アクティブ・ラーナーを育てる
英語教育」

3 授業発表

(1) 小学校授業実演(45分)

授業実演者：平山 美穂 教諭

(滋賀県大津市立晴嵐小学校6年生)

授業助言者：大嶋 秀樹 教授

(滋賀大学)

＜内容＞ALTからの「滋賀県のおすすめの体験を知りたい」というリクエストに応える形で単元が構成され、本時では、児童一人一人がwent やateなどの過去形や状態を伝える形容詞等を用いなが

ら、自分が体験した」学校行事や出来事について、ペアで練習し、発表していた。

(2) 中学校授業実演(50分)

授業実演者：関口 真 教諭

(滋賀県竜王町立竜王中学校3年生)

授業助言者：今井 裕之 教授

(関西大学)

＜内容＞本時の授業は、New Horizon English Course 3, Unit 6 Striving for a Better Worldのまとめにあたる。Pace Maker役の生徒へのinterview活動、教科書の内容を題材にしたミニディベート、グループディスカッション、クラスディスカッションなど、生徒が主体となった統合的言語活動を通して、積極的に即興での英語のやりとりが行われた。

(3) 高等学校授業実演(50分)

本時の授業では、コミュニケーション英語Ⅱの授業として、Revised ELEMENT English communication II, Lesson 8 Selective Breedingで学習した内容から派生した問いである「ペットロボットと生き物のペットのどちらがいいか」について、生徒それぞれが思考し意見をまとめ、発表した。帯活動である3人1組のスピーチ活動に始まり、その後、4人グループ10組が与えられたテーマに関して、賛成、反対それぞれの立場でリサーチした内容が発表され、即興での質疑が行われた。

4 分科会

(1) 期 日：11月17日(土)

(2) 会 場：ピアザ淡海、コラボしが21

(3) 分科会：小学校 : 6分科会

中学校 : 9分科会

高等学校 : 13分科会

小中連携 : 1分科会

中高連携 : 3分科会

5 今年度の研究大会の特徴

新学習指導要領を受け、学習してきた英語を用いて、根拠を示しながら自分の考えや思いを発信したり、即興的に対話をしたりする事例が、実演や分科会を通じて示されていた。

第42回 関東甲信地区英語教育研究協議会 埼玉大会
～コミュニケーションを大切にする生徒の育成～

21世紀を逞しく生き抜く 日本人の育成を目指した英語教育

副会長 遠藤 哲也

1. 期 日
平成30年11月16日（金）
2. 会 場
全体会場 鴻巣市文化センター
第1分科会 桶川市立桶川西中学校
第2分科会 北本市立北本中学校
第3分科会 鴻巣市立吹上北中学校
3. 大会日程
9：10 受付
9：40 開会行事 主題提案
10：20 記念講演
11：40 昼食・移動
13：30 公開授業
14：30 分科会
県内外提案、研究協議
16：30 閉会行事
4. 参加申込者
249名（東京11名）
5. 記念講演
講 師：埼玉大学教育学部 教授
及川 賢 氏
主 題：「小・中学校における
英語指導のこれから」
6. 分科会テーマ
(1) 第1分科会
「統合的な言語活動を通じたコミュニ
ケーションを大切にする生徒の育成」
県外提案 東京都、山梨県
(2) 第2分科会
「学習形態などの工夫を通じたコミュニ
ケーションを大切にする生徒の育成」
県外提案 茨城県、栃木県、群馬県
(3) 第3分科会
「小・中・高の連携・接続を目指した
コミュニケーションを大切にする
生徒の育成」
県外提案 千葉県、神奈川県、長野県
7. 東京都からの提案
会 場：桶川市立桶川西中学校
提案者：前田 宏美 主任教諭
葛飾区立四ツ木中学校
主 題：「統合的な言語活動によって
発言力を高め相互交流を楽
しむ生徒の育成を目指して
～ストーリー・リテリング
の実践」
指導助言：東京都教職員研修センター
市川 拓治 指導主事
8. その他
(1) 第43回大会について
・開催地 東京都
・期 日 2019年11月15日（金）
・全体会場 国立オリンピック記念
青少年総合センター
・主 題
「主体的に英語を用いてコミュニケー
ションを図ろうとする態度の育成
～新学指導要領全面実施に向けて～」
(2) 第44回大会について
・開催地 山梨県
・期 日 2020年11月13日（金）
・全体会場 バルクラシック甲府

千代田区

I. 研究主題

「ウエストミンスター市海外交流教育事業
事前指導プログラムの開発」

II. 研究の経過

◇4月11日 一斉部会

内 容：組織作り、研究主題の設定

◇5月9日 教科部会

内 容：研究のテーマ、研究計画
作成、指導案作成割り当て

場 所：神田一橋中学校

◇6月6日 教科部会

内 容：作成した指導案の検討

場 所：麴町中学校

◇8～10月 事前指導（計5回）を実施

◇10月末 ウエストミンスター市交流
生徒受け入れ（10日間）

◇11月末 千代田区交流生徒派遣
（10日間）

◇12月5日 事前指導プログラム実施後の
課題と改善案の検討

◇2月6日 ペスタロッツ祭

内 容：研究の報告

◇3月 教科部会

内 容：今年度の反省と次年度の計画

*次年度は、今年度作成した指導案の改善
とALTと協力した指導体制について検討
する予定。

（麴町中学校主任教諭 柿崎伸樹 記）

中央区

I. 研究主題

「4技能を総合的に育成する指導の工夫
～パフォーマンステスト実施に向けて」

II. 研究の経過

◇4月11日

組織作り、研究主題決定、
年間活動計画作成

◇5月12日

スピーキングテスト検討

ALTのスピーキングテストの実践の紹介

◇6月6日 講演会

「Project-based learning for student
engagement」

講 師：明治大学国際日本学部専任准教授
Brian Rugen 先生

◇9月12日 第1学年研究授業

授業内容：New Crown 1

Lesson 4 Field Trip

授業者：岡部 樹子 教諭（晴海中）

江崎 靖子 区講師（晴海中）

講 師：明海大学外国語学部教職課程
教授 石鍋 浩 先生

◇10月12日～11月16日

スピーキングテスト実施

◇11月9日第1学年研究授業（小中連携）

授業内容：New Crown 1

Lesson 6 My Family

授業者：谷口 了太 主幹教諭

Peter Tu (ALT) (晴海中)

講 師：昭和学院中学校・高等学校
教諭 Kevin Forbes 先生

◇2月20日 今年度の反省

（晴海中学校主幹教諭 谷口了太 記）

港

区

I. 研究主題

「コミュニケーション能力を高める指導の工夫—小・中学校の接続を踏まえて—」を主題とし、小学校国際科研究部と連携して実践・研究を進めた。

II. 研究の経過

- ◇5月16日 年間計画立案、組織編制
- ◇6月6日 港区英語発表会の運営方針確認
- ◇9月12日 授業研究
授業者：吉田幸世 教諭
(高松中学校)
授業内容：第2学年 COLUMBUS 21 Book 2 Unit 5 Aya's Time in Okinawa
研究部のテーマに基づく授業実践と協議
- ◇11月7日 港区立中学校英語発表会
赤坂区民センターで、スピーチ、プレイを発表し、各校のネイティブ・ティーチャーも参観した。赤坂中学校のプレイが第一位となり、都大会に出場した。
- ◇1月16日 実践・研究のまとめ
次年度の研究部会運営方針の確認、全国英語教育研究大会滋賀大会、関東甲信地区中学校英語教育研究協議会埼玉大会、都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の調査結果説明会の報告
- ◇2月6日 港区教育研究会幼・小・中合同研究発表会
*上記の部会に加え、各校で校内研究会、アカデミー(幼・小・中一貫教育の組織)ごとの研究、国際科担当者会等で授業研究を実施し、実施内容や成果等を10校で共有し、授業改善に生かした。
(高陵中学校教諭 谷田啓 記)

新

宿

区

I. 研究主題

「新学習指導要領を踏まえた指導と授業改善」

II. 研究の経過

- ◇5月9日 春季一斉部会
組織作り、研究テーマと年間活動計画決定
- ◇6月21日 第一回研究授業
授業者：渡邊 功 主幹教諭
(新宿区立落合第二中学校)
講師：関 実 先生
(板橋区立高島第一中学校校長)
「小中の連携を深めた連続性のある授業」
- ◇8月2日 夏季一斉部会
「小中の連携を深めた連続性のある授業」
講師：竹田 秋人 先生
(元新宿区立牛込第三中学校校長)
「新学習指導要領を踏まえた授業改善」
講師：中村 貴美子 先生
(KIM's 英語教育・英語研究所 所長)
- ◇8月8日
第34回新宿区中学校英語学芸発表会
スピーチの部・プレイの部開催
- ◇10月4日 秋季一斉部会
「主体的・対話的で深い学びをイメージした授業づくり」
講師：宮本 司 教諭
(新宿区立落合第二中学校)
- ◇11月3日 第二回研究授業
授業者：吉島 美樹 教諭
(新宿区立牛込第一中学校)
講師：和泉 伸一 上智大学 教授
「新学習指導要領を踏まえた指導と授業改善」
- ◇2月21日 第三回研究授業
授業者：山崎 美砂子 主幹教諭
石黒 史織 教諭
(新宿区立新宿中学校)
講師：和泉 伸一 上智大学 教授
「新学習指導要領を踏まえた指導と授業改善」
(落合第二中学校教諭 宮本司 記)

文 京 区

I. 研究主題

「即興的な英語力を育成する指導と評価
～タブレットなどのICT機器を活用して～」

II. 研究の経過

◇5月9日（一斉部会）

英語部組織作り、研究主題の決定

◇1月10日

研究授業：第六中学校

授業者：山口 昌子 教諭

満留 桂子 教諭

内 容：現在進行形の疑問文や否定文を使って写真の説明や質問をし、積極的に相手に情報を伝える言語活動が行われた。イラストや写真を多用したワークシートを活用し、生徒の発話を活発にしていた。協議会では音読活動のやり方や、適切なアクティビティーの導入の仕方などについて議論をした。

◇11月16日・17日

全国英語教育研究大会への参加

石井 理絵 教諭（第十中学校）

小中高の各授業実演と分科会に参加した。『即興で伝え合うやりとりの指導』の分科会では、授業で実践できる様々な手法を知ることができた。『ライティング指導』の分科会では、ライティングにおける評価規準・基準について知ることができた。

◇1月22日 区中研英語部会

会 場：第十中学校

研修会：「中学校英語教育推進リーダー
還元研修」

講 師：原田 博子 教諭（第十中学校）
コミュニケーションを支えるための文法について研修会を行った。

①講義：講義・ワークショップ

②情報共有（報告）：各グループの報告、
情報共有。

（茗台中学校主任教諭 大木田陽子 記）

台 東 区

I. 研究主題

「新学習指導要領全面実施における課題
と実践」

II. 研究の経過

◇4月11日 区中研総会・一斉部会

・組織づくり、研究主題の決定等

◇6月13日 授業研究

・ALTによる模擬授業、教材の共有化

授業者：Michael Youn

（ボーダーリンク株）

単元名：NEW CROWN 2

Let's Talk 3

「避難訓練」

・第1回英語学芸会検討会

実施要綱案の検討

◇9月5日 第2回英語学芸会検討会

・英語学芸会実施要綱（細案）の検討

◇10月3日 研究授業・研究協議会

授業者：原 冬威 教諭（浅草中学校）

西巻 竜太 教諭（浅草中学校）

単元名：NEW CROWN 1

Let's Talk 6

「お昼ごはんを食べよう」

講 師：川中 子登志雄 先生

墨田区立第三吾嬬小学校長

◇11月10日 第66回英語学芸会

会 場：台東一丁目区民館

多目的ホール

参加校：台東区立中学校全校（7校）

内 容：RECITATION（4校）

SPEECH（18名）

PLAY（忍岡中 ESS）

◇11月16日 関東ブロック埼玉大会

参加者：川淵 英之 教諭（駒形中学校）

（御徒町台東中学校副校長 浦田哲男 記）

墨 田 区

- I. 研究主題
「主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成とパフォーマンス評価の工夫」
- II. 研究の経過
- ◇4月18日 区中研前期研究授業
 - ①役員選出：組織づくり
 - ②研究主題：年間活動計画の検討
 - ◇6月27日 区中研前期研究授業
 - ①授業者：池尻 辰雄 主任教諭（両国中）
単元名：3年
「Unit 3 Fair Trade Event」
 - ◇8月27日 区中研英語科夏季研修会
 - ①「効果的なアクティビティの紹介」に係る講義及びワークショップ等
講師：株式会社インタラックより
 - ②区学力調査分析について
報告者：佐藤 善明 教諭（両国中）
吉原 聡子 教諭（桜堤中）
 - ③中学生海外派遣について
報告者：辰田 りえ 教諭（墨田中）
 - ◇11月28日 区中研後期研究授業
 - ①授業者：関谷 知美 主任教諭
風間 佳子 主任教諭
石河 布樹子 教諭（竪川中）
単元名：2年
「Unit 5 Universal Design」
 - ②都学力調査報告
報告者：佐藤 善明 教諭（両国中）
 - ③英語教育推進リーダー中央研修報告
報告者：小川 可奈子 教諭（両国中）
 - ④教員海外派遣研修報告
報告者：河野 敏也 主幹教諭（寺島中）
 - ⑤Tokyo Global Gatewayについて
報告者：高田 奈々 教諭（錦糸中）
 - ◇12月7日 区学習状況調査結果分析における「指導のポイントを具体化した公開授業」（中学校英語）
 - ①授業者：佐藤 善明 教諭（両国中）
単元名：1年
「Unit 9 チャイナタウンへ行こう」
 - ◇2月13日 区中研 研究発表会（すみだリバーサイドホール）（錦糸中学校教諭 高田奈々 記）

江 東 区

- I. 研究主題
「4技能を統合した指導の工夫」
- II. 研究の経過
- ◇5月8日 区中研一斉部会
 - ・内 容：活動計画、組織作り
 - ◇6月20日 教科交流授業研究の日 深川会場
 - ・授業者：會田 美咲子 教諭（東陽中）
 - ・講 師：鈴木 知美 主幹教諭（深川五中）
 - 城東会場
 - ・授業者：中西 優貴 教諭（南砂中）
 - ・講 師：友田 和 主幹教諭（第二南砂中）
 - ◇11月6日 江東区英語学芸会
 - ・会 場：江東区文化センター
 - ・内 容：speech、play、others
 - ・play優勝校：深川第五中学校が都学芸大会に出場
 - ◇10月10日 教科交流授業研究の日 深川会場
 - ・授業者：竹内 由紀 主任教諭（深川五中）
 - ・講 師：白井 靖子 主任教諭（深川三中）
 - 城東会場
 - ・授業者：渡邊 愛沙美 教諭
松尾 春香 教諭（三砂中）
 - ・講 師：柴野 泰行 指導教諭（第二砂町中）
 - ◇11月8日 区中研英語部研究授業
 - ・授業者：清水 優延 教諭（深川四中）
 - ◇2月6日 区中研一斉部会
 - ・内 容：一年間のまとめ（第二南砂中学校副校長 吉村達也 記）

品 川 区

- I. 研究主題
「小中連携による英語教育の推進」
- II. 研究の経過
- ◇4月11日 研究テーマ、組織決定
 - ◇5月9日 今年度の研究計画策定
 - ◇6月6日 研究授業
授業者：林 美希 先生（三木小）
協議会：テーマ別研究協議会
 - ◇7月4日 講演会
講演：「CAN-DO評価の意義と活用」
講師：長沼 君主 先生
（東海大学教授）
 - ◇9月5日 分科会による研究
低学年：「歌とactivity」
中学年：「Let's Try! の活用方法」
高学年：「We Can! の活用方法」
中学部共通テーマ：「系統的なりタラシー指導」
7学年：「小中連携を意識した指導方法」
8学年：「オンライン英会話での指導」
9学年：「授業で使えるライティング指導」
 - ◇10月10日 分科会による研究
 - ◇11月7日 英語学習成果発表会
 - ◇11月14日 研究授業
授業者：久保山 紗弓 先生
（八潮学園）
講師：本田 勝久 先生
（千葉大学教授）
 - ◇12月5日 学校種別研究
【小学校・義務教育学校前期】模擬授業
授業者：大滝 さつき 先生（芳水小）
三間 映子 先生（芳水小）
講師：本田 勝久 先生
（千葉大学教授）
【中学校・義務教育学校後期】研究授業
授業者：古川 悟 先生（荏原六中）
講師：石井 亨 先生（文京十中）
 - ◇1月16日 研究授業
授業者：内山 真奈美 先生（延山小）
 - ◇2月13日 研究発表会
講師：本田 勝久 先生
（千葉大学教授）
（豊葉の杜学園校長 小泉和博 記）

目 黒 区

- I. 研究主題
「確かな学力を身につけさせる指導の工夫」
- II. 研究の経過
- ◇4月18日 研究目標、研究計画、
研究組織づくり
 - ◇7月4日
 - ◇10月10日 英語推進リーダー中央研修
講師：館野 久美子 主任教諭
 - ◇11月7日 東京都英語学芸大会予選会
目黒区立第八中学校3年優勝
講師：菅原 喜一 先生
（神奈川県立神奈川総合高等学校）
 - ◇12月5日 研究授業 第八中学校
「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～資質・能力を育む効果的な指導～」
授業者：椿 恭子 主任教諭
講師：田中 真紀子 先生
（神田外語大学外国語学部教授）
 - ◇1月9日 研究発表分科会に向けた協議
 - ◇1月30日 目黒区（外国語科・外国語活動）研究発表分科会
1年間のまとめ
小中合同研究実践発表会
小中連携の円滑な実施に向けた意見交換会
（東山中学校教諭 佐藤文 記）

大 田 区

I. 研究主題

「アクティブ・ラーニングを取り入れた指導の工夫」（2年目）

II. 研究の経過

- ◇4月18日 第1回部会（雪谷中）
部員自己紹介、組織編成、年間計画立案、部員名簿作成等
 - ◇7月6日 研究授業（大森第二中）
授業者：野村 祐士 教諭
講 師：北原 延晃 主任教諭
(港区立赤坂中学校)
 - ◇11月9日 連合学芸会（英語の部）
会 場：大田文化の森 大ホール
発 表：スピーチ37名、プレイ2校
プレゼンテーション1校
(都英語学芸会出場者の決定)
 - ◇12月2日 都英語学芸会
大田区の代表として、馬込東中学校のスウェットナウスキーマーティン君がスピーチの部に出場
 - ◇1月30日 第2回部会（雪谷中）
今年度の総括及び来年度の予定
研 修：「新学習指導要領について」
 - ◇2月4日 研究授業（馬込中）
授業者：新田 百香 教諭
講 師：ブリティッシュ・カウンシル
から派遣
 - ◇BULLETIN -OTA English Today-
(紀要) を年間の研究記録として毎年発行している。今年度は第29号。
- III. 今年度の部員数：98名
(雪谷中学校長 和田文宏 記)

世 田 谷 区

I. 研究主題

「次期学習指導要領を見据えた指導の工夫」

II. 研究の課程

- ◇5月9日 世田谷区立中学校教育研究会
総会（千歳中）
- ◇6月6日 前期教育研究会（玉川中）
(授業研究会)
授業者：小宮山 貴史 教諭
(玉川中学校)
(講演会)
演 題：「基礎英語LEADについて」
講 師：西居 敏彦 氏
(NHKエデュケーショナル)
- ◇8月6日 夏季研修会（玉川中）
演 題：「高等学校入学選抜に向けた指導の充実」
講 師：小澤 哲郎 校長先生
(東京都立青山高等学校)
- ◇11月6日 後期教育研究会
第29回世田谷区立中学校
英語スピーチコンテスト
会 場：砧区民会館（成城ホール）
- ◇11月30日 授業研究会（上祖師谷中）
授業者：福原 佳菜美 教諭
(上祖師谷中)
- ◇2月19日 国公私立中学校授業交流会
授業者：森 美穂 先生
(東京学芸大学附属世田谷中学校)
研究協議：東京学芸大学准教授
白倉 美里 先生
(瀬田中学校教諭 関根貴子 記)

渋谷区

I. 研究主題

「ICT機器を用いた教科書の効果的な活用の研究」

II. 研究の経過

◇5月9日 渋谷区中学校教育研究会
英語部会

・組織編制、研究主題、研究授業校の決定、年間活動計画の決定

◇11月7日 渋谷区中学校教育研究会
英語部 研究会

・研究授業

授業者：松木 大典 主任教諭

会場：原宿外苑中学校

内容：NEW HORIZON 1

Unit 8 イギリスの本

講師：国分寺市立第二中学校

重松 靖 先生

(笹塚中学校主任教諭 船山美穂子 記)

中野区

I. 研究主題

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業の工夫」

II. 研究主題の検討と決定（4月）

◇研修会の企画・運営・実施（6月）

講師：品川区立荏原第六中学校
岡崎 伸一 指導教諭

内容：「英語の授業におけるICTの効果的な利用法について」

◇研究授業と講演会の企画（10月）

講師：中野区立中野東中学校
井上 智恵 主任教諭

内容：「主体的・対話的な授業のあり方」

◇英語学会の企画・運営・実施（11月）

◇研究発表会及び講演会の運営・実施（2月）

講師：明治学院大学講師

田口 徹 先生

内容：「主体的・対話的な深い学びを実現する授業の工夫」

III. まとめ

新しい学習指導要領に対応すべく、ICTも取り入れた授業のあり方を一年間通して研究してきた。来年度も今回の研究が引継がれ区内全ての英語科教員にとって実りある研究会となることを期待したい。

(中野東中学校教諭 若穂圀翔 記)

杉 並 区

I. 研究主題

「主体的・対話的で深い学びを目指した
授業実践と評価」

II. 研究の経過

- ◇4月11日 杉並教育研究会一斉部会
研究主題・組織・年間計画
- ◇8月24日 夏季ワークショップ
「外国語教育における新学習指導要領の円滑な実施に向けた移行措置と小中連携等」
講 師：東京書籍英語編集部中学校英語編集長 天池 美佐 先生
「Writing活動の評価について」
講 師：BRITISH COUNCIL 講師
Laura Pratt 先生
- ◇10月3日 子小中合同研究会
会 場：杉並区立桃井第五小学校
授業者：田中 規子 教諭
単元名：野菜の名前を英語で言ってみよう（第2学年4組）
講 師：東京学芸大学教授
糟谷 恭子 先生
- ◇11月10日 英語学芸発表会
スピーチ部門16人
ショー部門3グループの発表があった。
- ◇2月13日 杉教研一斉部会研究授業
会 場：杉並区立井草中学校
授業者：伊藤 裕子 主任教諭
単元名：東京書籍 NEW HORIZON
English Course 1 Unit 10
「あこがれのボストン」
講 演：「主体的・対話的で深い学び」
の授業実践
講 師：東京都立武蔵高等学校附属中学校主任教諭 山本 崇雄 先生
- ◇2月下旬 杉並区リスニングテスト
(宮前中学校教諭 岡田成博 記)

豊 島 区

I. 研究主題

「生徒が意欲的に言語活動に取り組む授業の工夫ー小中連携をふまえてー」

II. 研究の経過

- ◇4月18日 区中研一斉部会（西池袋中）
年間行事計画、組織・係分担、
研究主題決定、研修会・全英連・
関プロ・英語学芸会の確認
- ◇8月27日 区中研英語部会（駒込中）
英語学習アンケート（1年生）について
総合研究発表会について
- ◇11月14日 区中研研究授業
授業者：権八 亜希子 教諭（西池袋中）
単元名：TOTAL ENGLISH 2
(学校図書)
Lesson6 「The 3 Rs in
Germany and Japan」
講 師：文部科学省国立政策研究所
名誉所員 渡邊 寛治 様
- ◇11月16日 関東ブロック埼玉大会に参加
- ◇12月15日 RCフェスタに参加
参加校：駒込中、池袋中
豊島区に関連することについて、既習の
英語を用いてスピーチを行った。
- ◇12月18日 区中研英語部会（駒込中）
総合研究発表会に向けての準備
- ◇2月6日 総合研究発表会
全体会において、上記研究主題について
発表
(駒込中学校教諭 島田有紀子 記)

北

区

I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力の向上
を目指した授業の工夫」

II. 研究の経過

- ◇4月25日 北区教育研究会英語・外国語活動研究部小中合同部会・中学校部会
内 容：組織作り、研究目標、
活動計画、情報交換

- ◇11月7日 連合英語学芸会
場 所：北区立滝野川会館
参加者：6校13名

最優秀生徒（桐ヶ丘中2年）
東京都英語学芸大会に参加

- ◇11月21日 中学校研究授業
授業者：山田 里英 教諭
黒川 佳菜 教諭
（神谷中学校）

対 象：中学校2年

単 元：NEW HORIZON

English Course2 Let's Read
“Try To be The Only One”

講 評：北区外国語教育アドバイザー
坂下 孝憲 氏

- ◇12月2日 東京都英語学芸大会
英語スピーチ参加

- ◇1月16日 北区英語科教員研修会
講 演：「実践的コミュニケーション
能力の向上を目指した授業の
工夫」
～ALTとのTeam Teaching
における効果的な指導法～

講 師：玉川大学文学部英語教育学科
教授 日臺 滋之 先生

- ◇2月7日 中学校研究授業
授業担当：赤羽岩淵中学校
講 師：東京都教育庁指導部義務教育
指導課統括指導主事
窪田 香 先生

（滝野川紅葉中学校教諭 太田湖希 記）

荒

川

区

I. 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろう
とする態度の育成」

～世界に広がる荒川の英語教育～

II. 研究の経過

- ◇4月18日 組織作り、研究主題決定

- ◇7月4日 研修会 南千住第二中
内 容：「スピーチ及びレシテーション
の指導法について」

- ◇9月12日 研究授業 第三中学校
授業者：小森 宇通 教諭
傳田 絵里香 教諭
斉藤 雅之 主任教諭

「積極的にコミュニケーションを図ろうと
する態度の育成」

- ◇10月31日 英語スピーチコンテスト
サンパール荒川

- ◇11月14日 小中合同部会
研究授業：第一中学校
授業者：中山 翼 教諭
尾賀 弘美 主任教諭
内 容：「小中連携を意識した指導」
講 師：玉川大学文学部准教授
工藤 洋路 先生

- ◇1月16日 小中合同部会
研究授業：汐入小学校
授業者：武田 智美 主任教諭
内 容：「自分の思いや考えを伝えよ
うとする児童の育成」
講 師：聖学院大学人文学部児童学科
客員教授 小川 隆夫 先生

- ◇2月13日 研究発表会 峡田小学校
内 容：「各学校の取り組みを発表」
（南千住第二中学校教諭 酒井和彦 記）

板 橋 区

I. 研究主題

「意欲的に言語活動に取り組む生徒の育成～ICT機器とアクティブ・ラーニングを活用した工夫ある授業～」

II. 研究の経過

- ◇4月11日 区中研一斉部会
役員選出、研究主題・年間活動計画等の決定
- ◇6月25日 第1回授業研究（西台中）
授業者：鈴木 啓太 教諭
- ◇8月2日 夏季ワークショップ
内 容：「授業におけるICT機器の有効活用について」
 - ①デジタル教科書の有効活用
板橋二中：長谷川 誠 教諭
 - ②授業における電子黒板の有効活用
板橋二中：山崎 理加 教諭
- ◇11月6日 「英語のつどい」
会 場：板橋区立アクトホール
出場校：22校（スピーチ、劇等）
- ◇11月7日 第2回授業研究（志村二中）
授業者：井手口 翔平 教諭
山崎 尚子 教諭
- ◇1月29日 第3回授業研究（高島二中）
授業者：永原 佳代子 主任教諭
指導講評：江東区立第二砂町中学校
主幹教諭 柴野 泰行 先生
- ◇2月7日 区中研教職員研究発表会
 - 英語部会研究発表（研究主題実践例）
 - ①板橋一中：賀来 裕子 教諭
 - ②板橋三中：有賀 健人 教諭
 - ③加賀中：石村 頼子 主任教諭
 - ④志村三中：藤野 康明 教諭

講 師：十文字学園女子大学教授
松岡 敬明 先生
(高島二中主任教諭 永原佳代子 記)

練 馬 区

I. 研究主題

「基礎・基本の定着を図り、コミュニケーション能力の基礎を培う。また、平成33年度からの次期学習指導要領の全面実施に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、生徒の思考力・判断力・表現力を育てる授業を実践する。」

II. 研究の経過

- ◇5月9日 区中研一斉部会
- ◇6月20日 授業研究会（光が丘第二中）
授業者：宮澤 菜摘 教諭
- ◇8月1日・2日 夏期研修会
 - * 「ALTをつかった実践的WORKSHOPの在り方」
講 師：Mr. Harry Cleveland
他ポーターリンクALT
 - * 「Focus-on-Form Approach to English Teaching in Japan」
講 師：和泉 伸一 先生
(上智大学教授)
 - * 「練馬区内小学校での外国語・外国語活動への取り組みについて」
講 師：練馬区小学校教育会外国語活動研究部員
 - * 「コミュニケーションのための英文法指導」
講 師：阿野 幸一 先生
(文教大学国際学部教授・同大学院国際学研究科教授)
- ◇10月20日 英語学芸会
(練馬区立生涯学習センター)
都大会出場校：石神井西中
“The Bell of Atri”
- ◇11月7日 授業研究会（大泉中）
授業者：加藤 広太郎 教諭
- ◇2月6日 研究発表
文部科学省中央研修の還元研修
教員海外派遣研修の報告
教育課程編成資料作成委員会からの報告
(南が丘中学校教諭 若林準也 記)

足 立 区

I. 研究主題

「足立スタンダードを活用した授業づくりを目指して～新学習指導要領を踏まえて～」

II. 研究の経過

- ◇4月18日 一斉部会（千寿桜堤中）
 - ・研究テーマ、事業計画、組織の確認
- ◇7月3日 英語教育重点支援校授業研究
 - ・授業者：上尾 栄美子 主任教諭（第五中）
 - ・講 師：足立区教育委員会 小中連携教育担当兼英語教育推進担当 課長 西貝 裕武 先生
- ◇9月19日 小中合同研修会（西新井小）
 - ・授業者：轟木 陽子 主任教諭
 - ・講 師：文部科学省 国際教育課教科調査官 直山 木綿子 先生
- ◇10月17日 小中合同研修会（第十中）
 - ・講 演：「小中連携と新学習指導要領」
 - ・講 師：文教大学 金森 強 教授
- ◇10月25日 連合英語学芸会（西新井文化ホール）
 - ・スピーチの部 優勝 花畑中学校
 - ・プレイの部 優勝 千寿桜堤中学校
- ◇11月14日 授業研究
 - ・授業者：西新井中学校 小柳 守生 主任教諭
 - ・講 師 足立区教育委員会 小中連携教育担当兼英語教育推進担当 課長 西貝 裕武 先生
- ◇12月5日 授業研究・研修会
 - ・授業実践報告とワークショップ
- ◇1月30日 一斉部会（第十中）
 - ・講 演：「新学習指導要領の趣旨を生かした授業の在り方」
 - ・講 師：東京家政大学 太田 洋 教授（第十中学校主幹教諭 泉昌史 記）

葛 飾 区

I. 研究主題

「思考力・判断力・表現力」を育む段階的な指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇4月9日 ALT導入全校説明会、割当調整会議
- ◇5月9日 葛中研全員部会 事業報告、会計報告、役員選出、事業計画、予算案、情報交換
- ◇6月13日 ワークショップ研修会 講 師：小川 直樹 先生（津田塾大学 講師）
- ◇11月29日 第1回研究授業 授業者：関 剛志 教諭（立石中） 講 師：東 仁美 先生（聖学院大学 准教授）
- ◇11月10日 第33回葛飾区立中学校英語スピーチ&プレイコンテスト（於：かめありリリオホール） 暗誦（6名）プレイ（3校）スピーチ1（8名）スピーチ2（24名）参加、プレイ優勝校（中川中）が都大会に出場した。
- ◇2月18日 第2回研究授業 授業者：太田 恵理子 指導教諭（上平井中） 講 師：小川 直樹 先生（津田塾大学 講師）
- ◇2月27日（予定） 役員会：年度末反省、次年度活動計画、名簿作成、情報交換（立石中学校主任教諭 河野光志 記）

江戸川区

I. 研究主題

「コミュニケーション能力を養う指導方法の工夫」

II. 研究の経過

◇5月9日 総会、役員会

- ・組織づくり
- ・年間活動目標、計画の検討、作成

◇6月6日 研究授業、協議会

授業者：安野 壽美 主任教諭
(篠崎二中)

- ・H30年度組織・年間活動計画 決定

◇7月23日・7月25日・8月1日・

8月3日・8月7日・12月26日

英語教育推進リーダー還元研修

講師：柳 絵未 主任教諭
(葛西三中)

◇11月15日 研究授業、協議会

授業者：坂井 美緒 教諭
(鹿本中)

◇2月6日 研究授業、講演会

授業者：弭間 省吾 教諭
(葛西三中)

講演会：「英語で授業を進めるための
方策と準備」

講師：田口 徹 先生
(明治学院大学文学部非常勤講師
法政大学中学高等学校兼任講師
元九段中等教育学校勤務)
(葛西第三中学校副校長 鈴木訓文 記)

八王子市

I. 研究主題

「実践的な授業を通じた授業力・指導力の向上」

II. 活動の経過

◇5月2日 役員会

主題設定、組織、活動計画確認

○6月18日 2・3年次研修(綾南中)

授業者：宮内 瞭 教諭

講師：佐藤 ひろみ 先生(横川中)

○10月15日 研究授業(七国中)

授業者：相浦 茉利奈 教諭

講師：堀内 雄士 校長(七国中)

小島 幸子 副校長(石川中)

○11月7日 一斉部会 研究授業

1ブロック

授業者：鈴木 慶子 主任教諭(第五中)

講師：山下 喜世子 様(元第五中)

2ブロック

授業者：佐野 あいり 教諭(楯原中)

講師：福井 正仁 様

(玉川大学教授)

3ブロック

授業者：井越 基子 主任教諭

(浅川中)

講師：関谷 さやか 様

(都教委指導企画課 国際教育)

4ブロック

授業者：金森 道子 主任教諭

(別所中)

講師：山本 恵美子 様

(明星大学通信教育課程客員教授)

○2月21日 研究授業 情報・意見交換

授業者：宮崎 太樹 教諭

(ひよどり山中)

(石川中学校副校長 小島幸子 記)

立 川 市

I. 研究主題

「主体的・対話的学びを生かした生徒の育成」

II. 研究の経過

- ◇5月9日 立中教研一斉部会
研究内容・活動計画決定
- ◇8月23日 夏季研修会
 - ・海外派遣教員によるワークショップ
 - 発表者：吉田 由美 主任教諭
(立川市立立川第三中学校)
 - 内 容：言語活動例提示と実践
 - 発表者：山本 優子 教諭
(立川市立立川第九中学校)
 - 内 容：ICT（生徒用タブレット）を活用した活動例提示と実践
 - ・10月研究授業に向けての指導案検討
- ◇10月3日 研究授業
授業者：田中 明美 教諭
対 象：立川第五中学校 1年生
内 容：TOTAL ENGLISH Lesson 6
“Junior High School in the U.S.”
講 師：関口 智 主任教諭
(江戸川区立清新第一中学校)
講 演：「英語で行うコミュニケーション的な授業作り」
- ◇2月13日 立中教研一斉研究発表会

III. 成果と課題

夏の研修では、言語活動の実践例、ICT機器の活用など、個々の生徒に対応した授業展開を共有できた。

10月の研究授業に向けて、授業者だけでなく、部員全員で改善に向けて協議を行い研究主題について理解を深めた。

小学校での英語教育改革に対応し、地域の小学校とのカリキュラム連携を進めていく事が今後の課題である。

(立川第九中学校主幹教諭 岡田佳代子 記)

武 蔵 野 市

I. 研究主題

「コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導の工夫～CAN-DOリストの共有と分析を通じた小中連携～」

II. 研究の経過

- ◇4月18日 武教研総会・組織編成
- ◇5月16日 活動計画、研究主題検討
- ◇6月6日 小学校部会（評価研修）
- ◇7月4日 小学校部会（指導案検討）
- ◇10月10日 研究授業 I
授業者：森井 遥香 教諭
(武蔵野市立第一小学校)
対 象：第4学年1組
単 元：Let's Try 1 Unit 6
アルファベットとなかよし
講 師：鈴木 恭子 指導主事
(三鷹市教育委員会指導課)
- ◇11月7日 Tokyo Global Gateway
視察
- ◇12月5日 小学校部会
(CAN-DOリスト)
- ◇1月16日 研究授業 II
授業者：川邊 真梨子 主任教諭
永井 玲子 主任教諭
(武蔵野市立第三中学校)
対 象：第1学年1組
単 元：New Crown 1 Lesson 9
“Four Seasons”
協 議：来年度の研究発表に向けて、CAN-DOリストの内容を検討。来年度は全校での調査を実施。

III. 成果と課題

小中合同の研究部になって3年目となった。これまで以上に小中7年間のゴールを共通理解することが必要であり、児童・生徒の実態把握のためにCAN-DOリストを作成し、その達成状況の共有を目指すことで、効果的な小中連携の足掛かりを作ることができた。来年度も継続して同じテーマで研究に取り組む予定である。

(第一中学校主任教諭 坪田裕希 記)

三 鷹 市

I. 研究主題

「発達段階に応じたコミュニケーション能力の育成～新学習指導要領を見据え9年間の指導を見通して～」

II. 研究の経過

- ◇4月11日 組織決めと年間活動計画
- ◇5月9日 講演会「次期学習指導要領における資質・能力の育成とカリキュラム・マネジメントについて」
(上智大学教授 奈須 正裕 氏)
- ◇6月13日 小中合同研究授業
単元名：Program 3
“The 5 Rs to Save the Earth”
Sunshine English Course 3
授業者：雙田 晋也 教諭
(第二中学校)
講 師：松永 透 先生
(三鷹市教育委員会 指導課長)
- ◇9月12日 小・中合同研究授業
単元名：Unit 4 “What time do you get up?” (We Can! ①)
授業者：吉田 知寛 教諭
(中原小学校)
講 師：金森 強 先生
(文教大学教授)
- ◇10月10日 小・中合同研究授業
単元名：Program 6
“A Work Experience Program”
Sunshine English Course 3
授業者：古澤 雅 教諭
(第一中学校)
講 師：金森 強 先生
(文教大学教授)
- ◇11月7日 大沢台小学校にて
(小) 植村 友博 教諭による研究授業
(中) インタラックによるワークショップ
「小中連携 新学習指導要領において目指す小学校英語について知り、中学校としてこれからどうすべきか 指導のヒントをつかむ」
- ◇1月16日 第七小学校にてワールド
カフェ形式による協議会
テーマ：「新学習指導要領の趣旨を踏まえた小・中接続のあり方」
- ◇2月13日 今年度の研究のまとめ
(第一中学校教諭 田中佳奈 記)

青 梅 市

I. 研究主題

「より良い授業の工夫と創造（主体的・対話的に学ぶ意欲態度の育成）」

～小・中学校の連携を深め、生徒の英語の運用能力・理解力を高めるために～

II. 研究の経過

- ◇5月9日 中教研全体会・部会
- ◇8月29日 一斉教科部会
【研修内容】
○講義・演習
「英語科における主体的・対話的で深い学びに関わる指導の実際について」
【講師】 都教職員研修センター研修部
教育開発課
指導主事：白川 智恵子 先生
- ◇10月25日 一斉研究授業
【授業者】
梅田 篤 主任教諭 (新町中)
上川 陽子 教諭 (同上)
大福 啓太 教諭(同上)
【講師】 都教職員研修センター研修部
教育開発課
指導主事：市川 拓治 先生
(指導・講評)
○生きて働く知識を身に付けさせるためには、学習場面において、未知の状況を取り入れていくことにより、学びに向かわせることが大切である。
○目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら、コミュニケーション活動を行い、生徒の発話量、自由度を増やしていくことが重要である。
(西中学校副校長 廣瀬尊貴 記)

府 中 市

- I. 研究主題
「実践的な指導力の向上～コミュニケーション能力の向上を目指して～」
- II. 研究経過及び内容
- ◇4月11日 部員総会
部長等役員選出、研究主題・年間研究計画検討、授業研究校の確認
 - ◇6月13日 小中連携の日
各地区の授業公開と協議会に参加
 - ◇7月24日～26日 「府中市版英語村」
“Cooking in English”
英語を使って調理実習を行い、外国人と交流する様子の見学、参加
 - ◇9月12日 研究授業・協議会
授業者：松岡 佐知子 教諭（四中）
 - ◇10月10日 ワークショップ①
授業で実践できるコミュニケーション活動①
講 師：マイケル・ユン 氏
 - ◇11月14日 ワークショップ②
授業で実践できるコミュニケーション活動②
講 師：マイケル・ユン 氏
 - ◇1月16日 研究授業
授業者：小林 里江 教諭（五中）
講 師：内田 富男 先生
（明星大学人文学部准教授）
 - ◇1月30日 府教研研究発表会
 - ◇3月6日 研究のまとめ
次年度の研究主題や研究内容の検討と引継ぎ事項の確認
（府中第九中学校教諭 菊池望水 記）

昭 島 市

- I. 研究主題
「新学習指導要領による小学校英語との接続を図った中学校英語教育の先駆的な取組の推進」
- II. 活動報告
- ◇4月20日 部員総会
内 容：研究主題設定、活動計画、モデル地区事業の取組について、組織作り
 - ◇5月16日 研究授業・協議会
〔瑞雲中学校〕
内 容：Do you～？の文の会話と聞き取り
講 師：工藤 洋路 先生
（玉川大学准教授）
 - ◇6月13日 研究授業・協議会
（足立区と合同）
〔昭和中学校〕
内 容：What do you～の文のやりとり
講 師：工藤 洋路 先生
（玉川大学准教授）
 - ◇6月26日 研究授業・協議会
〔清泉中学校〕
内 容：自己紹介の即興のやりとり
講 師：工藤 洋路 先生
（玉川大学准教授）
 - ◇7月10日 研究授業・協議会
〔拝島中学校〕
内 容：自分のことについて書く。
講 師：工藤 洋路 先生
（玉川大学准教授）
 - ◇9月11日 研究授業・協議会
〔福島中学校〕
内 容：読むことにおける本文の指導
授業者：工藤 洋路 先生
（玉川大学准教授）
 - ◇10月3日 研究授業・協議会
〔多摩辺中学校〕
内 容：三人称単数の文のやりとり
 - ◇10月23日 小学校との合同研究会
〔共成小学校〕
「We Can!」を活用した英語活動
（昭和中学校校長 中島理智 記）

調 布 市

I. 研究主題

「小学校での英語の教科化に伴い、英語教育における具体的な小中連携のあり方を探る」

II. 研究の経過

- ◇5月9日 一斉部会
会 場：神代中学校
内 容：年間テーマ・予定の提示
- ◇6月6日 一斉部会
会 場：第八中学校
内 容：各ブロックでの計画立案
- ◇7月24日 夏季研修会
会 場：Tokyo Global Gateway
内 容：視察、見学
- ◇7月末から8月末 各ブロックでの
小中合同連絡協議会
- ◇10月10日 小学校授業公開
 - ①授業者：海野 侑香 先生（深大寺）
 - ②授業者：磯部 晃子 先生（多摩川）
 - ③授業者：坂本 徹平 先生（第二）
 - ④授業者：小黒 靖子 先生（緑ヶ丘）
- ◇11月7日 中学校授業公開
 - ①授業者：田中 宣彰 先生（神代）
 - ②授業者：岩田 歩 先生（第五）
 - ③授業者：細谷 貴志 先生（第三）
 - ④授業者：内田 章子 先生（第七）
 - ⑤授業者：泉原 花奈子 先生（第四）
- ◇1月16日 一斉部会
内 容：今年度の成果と課題
(各ブロックによる発表)
会 場：第八中学校
- ◇2月6日 研究発表会
(第八中学校主任教諭 高橋友紀子 記)

町 田 市

I. 研究主題

「次期学習指導要領を見据えた『話すこと（発表とやりとり）』の指導と評価」

II. 研究の過程

- ◇4月11日 第一回一斉部会
会 場：町田市立町田第二中学校
内 容：研究主題の設定
年間活動計画
組織作り
- ◇7月14日 研究授業・協議会
会 場：町田市立町田第一中学校
授業者：吉岡 順子 指導教諭
- ◇10月31日 第二回一斉部会
会 場：町田市立町田第一中学校
内 容：講演とワークショップ
「話すこと（発表とやりとり）に
つながる実践的な指導方法とそ
の評価」
講 師：古川 悟 先生
(品川区立荏原第六中学校)
- ◇1月30日 第三回一斉部会
(研究発表)
会 場：町田市立つくし野中学校
内 容：研究授業・協議会
授業者：藤橋 歩美 教諭
高橋 弥冬 教諭
(つくし野中学校)
(つくし野中学校教諭 高橋弥冬 記)

小 金 井 市

I. 研究主題

「新学習指導要領に向けて
OUTPUT活動の実践を目指す」

II. 研究の経過

- ◇4月18日 一斉部会
 - ・組織づくり、研究主題の設定
 - ・年間活動計画の作成
- ◇6月6日 市教研部会
 - ・テスト問題を持ちより、意見交換
- ◇10月10日
 - ・研究授業参観
 - 授業者：今川 和哉 教諭
(小金井市立東小学校)
 - ・意見交換、
 - ・これからの小学校英語について
- ◇11月7日 研究授業
 - 授業者：近藤 正子 教諭
(小金井市立南中学校)
 - 講 師：塩原 真一 校長
(小金井市立南中学校)
- ◇1月16日 講演会
 - 講 師：重松 靖 校長
(国分寺市立第二中学校)
 - ・新学習指導要領に向けて
- ◇2月6日 研究発表会
(小金井市立南中学校教諭 近藤正子 記)

小 平 市

I. 研究主題

「Speaking力の向上～即興性を高め、
つながりのある会話を続ける場面設定
を工夫した授業」

II. 研究の経過

- ◇4月25日 教科等研究会総会
第1回英語部会
組織、計画立案
- ◇7月23日 夏期研修会
(小平第二中学校)
内 容：・Speaking力の向上を図る
授業の工夫
- ・単発的な取り組みから継続的
な取り組みとなる使用場面の
設定
- ・自信をもたせ、表現する内容
を広げる場面設定の工夫
- ・インプットから効果的なアウト
プットへとつなげる工夫
- 講 師：太田 洋 先生
(東京家政大学教授)
- ◇9月12日 授業研究
会 場：小平第四中学校
授業者：島田 裕也 教諭
NEW CROWN 1 Let's Talk 4
講 師：五十嵐 浩子 先生
(東京都教育庁指導部主任指導主事)
- ◇英語教育推進リーダー還元研修
12月26日 (第1回)
1月7日 (第2回)
3月26日 (第3回)
会 場：小平第五中学校
講 師：田所 毅 主任教諭
(小平第一中学校主幹教諭 中井正弘 記)

日 野 市

I. 研究主題

「CAN-DOリストを活用した効果的な指導」

～より良い小中の連携を目指して～

(昨年度からの継続主題)

II. 研究の過程

- ◇5月9日 中教研総会：組織作り
- ◇6月6日 研究授業①
授業者：佐藤 真雄 主任教諭
(日野第二中)
NC3 L4 GET1 『The Story of Sadako』
GOAL [テキストの内容を考えて音読する]
- ◇7月4日 研究授業②
授業者：高原 泰男 教諭 (七生中)
NC2 Project1 『有名人を紹介しよう』
GOAL [自分の好きな有名人について
ポスターを使って説明する]
講 師：谷口 幸夫 主任教諭
(都立小平高等学校)
- ◇9月5日 研究授業③ 小中連携研究
授業者：山田 千代里 教諭
(大坂上中)
NC2 L4 USE Speak 『会話を広げよう』
GOAL [相づちや質問で会話を続ける]
講 師：相沢 秀和 指導教諭
(国分寺第一中学校)
- ◇10月10日 研究授業④ 小中連携研究
授業者：中野 健 主任教諭
(日野第七小)
HI FRIENDS Let's Try 2 Unit 6
GOAL [Alphabetで文字遊びをしよう]
講 師：田近 裕子 先生
(津田塾大学総合政策学部教授)
- ◇11月5日 研究授業⑤
授業者：角田 雄紀 教諭 (三沢中)
(教師道場部員による公開授業)
NC3 L7 『English for Me』 GET1
GOAL [先生にしてほしいことを企画しよう]
講 師：関 実 先生
(板橋区立高島第一中学校校長)
- ◇11月13日 研究授業⑥ 中高連携研究
都立南平高校の3年生を対象に、JTとALTが別々にInterview Testを行う授業
(三沢中学校主任教諭 佐藤真雄 記)

東 村 山 市

I. 研究主題

「言語活動の充実～英語を通して思考力・表現力を高める」

II. 研究の経過

- ◇4月11日 統一部会
(東村山市立富士見小)
- ◇5月9日 定期総会 (中央公民館)
- ◇6月20日 小学校外国語活動授業参観
(久米川東小学校)
- ◇7月4日 研究主題の設定、
年間活動方針の決定など
(東村山第三中学校)
- ◇8月1日他 中英研ワークショップ参加
- ◇9月5日 講演会
『これからの英語教育について』
講 師：国分寺市立第二中学校
重松 靖 校長先生
(東村山第三中学校)
- ◇10月3日 マイクロティーチング・
研究協議
(東村山第三中学校)
- ◇11月7日 使用教材等情報交換
(東村山第三中学校)
- ◇1月16日 使用教材等情報交換
研究課題の達成状況のまとめ
(東村山第三中学校)
- ◇2月14日 研究発表会 (中央公民館)
- ◇3月6日 今年度のまとめ、次年度の
計画 (東村山第三中学校)
(東村山第三中学校主幹教諭 美濃谷ひろみ 記)

国 分 寺 市

I. 研究主題

「新学習指導要領を踏まえた指導の工夫」

～スピーキング活動を中心に～

II. 研究の経過

◇4月11日 一斉部会

内 容：研究主題・年間活動計画の検討

◇6月7日 ワークショップ

内 容：使える英語力を育成するプロジェクト授業の進め方

講 師：国分寺第一中学校

相沢 秀和 指導教諭

◇10月3日 研究授業

授業者：第五中学校

谷口 弘美 主任教諭

内 容：NEW CROWN

ENGLISH SERIES BOOK 2

Lesson 6 My Dream

講 師：工藤 洋路 先生

(玉川大学准教授)

◇1月16日 一斉部会

内 容：研究のまとめ

III. 成果と課題

今年度は昨年度の研究「小学校での活動を踏まえた上での実践的コミュニケーション能力の育成」をもとに、小中連携を図りつつ、新学習指導要領実施に向けて、生徒に身に付けさせたい技能、能力を確認し、特にスピーキング活動を中心に言語活動に工夫ができないかを考える研究となった。

既習の知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けさせるような言語活動を工夫していきたい。

(第五中学校主任教諭 谷口弘美 記)

国 立 市

I. 研究主題

「深い学びにつなげる表現力の育成」

II. 研究の経過

◇4月19日 組織編制・主題設定

◇5月30日 研究授業指導案検討

◇6月27日 研究授業・研究協議

授業者：国立第一中学校

平沼 修子 教諭

伊藤 光 教諭

樋口 はる菜 教諭

内 容：2年生 Unit 3

(COLUMBUS 21)

“Plans for the Summer”

講 師：玉川大学大学院教授

佐藤 久美子 先生

◇7月24日 研究授業振り返り

公開授業指導案検討

◇9月5日 公開授業指導案検討

◇11月7日 公開授業・研究協議

授業者：国立第三小学校

金井 俊輔 教諭 (T1)

栗城 明子 先生 (ALT)

内 容：3年生

“What do you like?”

講 師：玉川大学大学院教授

佐藤 久美子 先生

◇1月16日 研究のまとめ

(国立第二中学校教諭 石毛いずみ 記)

福 生 市

I. 研究主題

「主体的に学び、確かな学力を身に付けた児童・生徒の育成」

―見方・考え方を働かせた学びの実践を通して―

II. 研究の経過

- ◇4月18日 年間計画の作成
研究主題設定
- ◇6月27日 小学校外国語学習
(福生第五小学校にて授業観察)
- ◇8月20日 夏季研修会
講 師：片山 七三雄 先生
(東京理科大学教授)
- ◇9月5日 研究授業 (福生第三中学校)
授業者：本多 康二 教諭
須田 和也 主幹教諭
内 容：NEW CROWN 3
Let's Read 1 Dolphin Tale
講 師：早川 裕之 先生
(東京都教育庁指導部
義務教育指導課 指導主事)
- ◇1月16日 小学校研究授業
- ◇2月13日 福教研報告会
(福生第一中学校教諭 永澤新樹 記)

狛 江 市

I. 研究主題

「対話力を重視した実践的な学びを目指して」

II. 研究の経過

- ◇4月 英語科部会
- ◇5月 一斉部会(定期総会)
- ◇7月 部長会
- ◇研究授業・研修会
 - テーマ
「対話力を重視した実践的な学びを目指して」
 - 授業者：菅原 有衣子
 - 講 師：明海大学教授
高野 敬三 先生
- ◇1月 部長会
- ◇2月 研究活動報告会
- III. 成果と課題
 - ・活動を取り入れた授業展開
 - ・小学校英語との連携と共通理解
 - ・新学習指導要領についての理解(狛江第一中学校主幹教諭 千ヶ崎久夫 記)

東 大 和 市

I. 研究主題

「効果的な小中連携のあり方～学習意欲を引き出す指導の工夫～」

II. 研究の経過

◇5月16日 一斉部会（四中）

研究主題の検討、活動計画の作成

◇7月23日 夏の研修（二中）

* 小学校外国語活動及び外国語科との連携について

* 学習意欲を引き出す工夫について

講 師：国分寺市立第一中学校

相沢 秀和 指導教諭

研究協議会で具体的な英語の指導法について講演をして頂き、日々の授業の参考になった。

◇11月7日 研究授業（二中）

授業者：東大和市立第二中学校

金井 史子 教諭

第1学年 Lesson 5 疑問詞 who

講 師：小学校英語教育アドバイザー

三浦 邦子 先生

目的を提示して活動に取り組みさせることで授業もより良いものになることを、実践例を通して学んだ。また、講師の三浦先生から小学校の外国語教育の立場から助言をいただき、各校から意見を出し合って検討できた。

（第二中学校教諭 金井史子 記）

清 瀬 市

I. 研究主題

全体

「確かな学力を育成するとともに、学びへの関心や意欲を高めるための指導方法の工夫」

英語部会

「会話が継続できる指導の工夫」

II. 研究の経過

◇4月19日 教育研究会

会 場：清瀬第二中学校

内 容：研究主題の設定、年間活動計画の作成、情報交換

◇10月31日 教育研究会

会 場：清瀬第二中学校

授業者：東井 靖展 主任教諭
第1学年 Lesson 5

“Who is～?”

講 師：大東文化大学 特任准教授
三野宮 春子 先生

内 容：研究授業、講評、研究協議

各校より「会話が継続できる指導の工夫」についての実践報告

・研究授業では教員や生徒の幼い頃の画像を用いて生徒の興味関心を引き、オーラルイントロダクションを通してwhoの用法の理解につなげていた。

・講評では音読練習（パターンプラクティス）を基本に「会話が継続できる指導の工夫」の一例を学んだ。実際に教員同士でペアになり、演習を行うことで教室での進め方や指導のポイントを確認することができた。

◇2月13日 研究発表会

会 場：けやきホール

内 容：各部会の研究成果の発表

（清瀬第五中学校主任教諭 伊藤潔 記）

東久留米市

I. 研究主題

「自分の考えを主体的に伝えるための
コミュニケーション能力の育成」

II. 研究の経過

◇5月16日 市授業改善研

研究主題・情報交換

◇7月2日 研究授業

大門中学校2年生

授業者：宮野 清夏 教諭

講師：小学校英語指導者認定協議会
松香 洋子 理事

◇10月18日 研究授業

下里中学校3年生

授業者：安井 もえ子 主任教諭

講師：杉並区立杉森中学校
福田 和子 副校長

◇11月9日 研究授業

南中学校1年生

授業者：阿部 公一 教諭

講師：小学校英語指導者認定協議会
松香 洋子 理事

◇2月1日 市授業改善研

研究報告・発表会

◇研究のまとめ

(1) 相手に伝えようとする意欲を高めさせるようなtopicの提示や、生徒が話そうとする場面設定や活動形態の工夫と、実際のコミュニケーションにおいて活用するためにコミュニケーションを行う目的や場面・状況設定の工夫が重要である。

(2) 主体的な言語活動の紹介・報告会を実施。理解の遅れがちな生徒への段階的な指導の工夫や、英語で日本を紹介する取り組み方法などを共有し、研修を深めることが出来た。

(中央中学校主幹教諭 三田村規子 記)

武蔵村山市

I. 研究主題

「小中一貫教育を意識した表現活動の工夫
～話すことを中心として～」

II. 研究の経過

◇4月18日 中教研一斉部会

・研究主題設定

・組織編制

・年間計画 等

◇10月3日 第三中学校授業実践交流会

授業者：松橋 翔 教諭

田村 耕子 教諭

単元名：ONE WORLD 2

Time for a Skit ②

・道案内で使われる基本的な表現を用いて、身振りや手ぶりを利用しながら、積極的に道案内をすることができる。

◇11月7日 第二回部会

研修会及びワークショップ

講師：千葉大学教育学部附属中学校

蜂巢 桂 教諭

テーマ：「小学校の英語活動から

中学校の英語への接続」

◇2月14日 第三回部会

研究授業及び協議会

授業者：正木 麻里衣 教諭

単元名：ONE WORLD 1

Lesson 9 part ①

「オーストラリアの観光地から」

・休日に自分がしたことについて規則動詞過去形を用いて人に伝えることができる。

(第二中学校主任教諭 松下真由美 記)

多 摩 市

I. 研究主題

「スピーキング力の向上を目指した
授業改善」

II. 研究の経過

- ◇5月9日 多摩市中教研一斉部会
場 所：多摩市立諏訪中学校
内 容：研究主題と年間計画の決定
- ◇6月6日 ワークショップ
場 所：多摩市立聖ヶ丘中学校
内 容：グループ演習および指導・講評
講 師：八王子市立横川中学校
佐藤 ひろみ 校長
- ◇11月15日 研究授業
場 所：多摩市立諏訪中学校
内 容：授業観察と研究協議
授業者：多摩市立諏訪中学校
中山 千佳 教諭
講 師：東京都教職員研修センター
研修部 専門教育向上課
三輪 政継 指導主事
- ◇2月13日 研究発表会
場 所：多摩市立鶴牧中学校および
多摩市立落合中学校
内 容：市内研究指定校による
研究成果の発表
(聖ヶ丘中学校教諭 高松文人 記)

稲 城 市

I. 研究主題

「主体的にコミュニケーションを図ろう
とする態度の育成」

II. 研究の経過

- ◇4月18日 研究主題・組織・計画作成
- ◇5月9日 ブロック協議会
小中ブロックに分かれての情報・
意見交換
- ◇6月13日 ブロックでの研修会
小学校部会：「主体性を引き出す指導」
中学校部会：「パフォーマンステスト」
- ◇8月23日 授業研究会(指導案検討)
小中ブロックに分かれて研究授業の
指導案を検討
講 師：齋藤 涼子 先生
(白百合女子大学)
鈴木 悟 先生
(都立両国高校附属中学校)
- ◇9月12日 研究授業
授業者：秋山 美歩 (稲城第三中学校)
学 年：2学年
単 元：Lesson 4 Enjoy Sushi
講 師：鈴木 悟 先生
(都立両国高校附属中学校)
- ◇10月10日 研究授業
授業者：北川 由美 (稲城第二小学校)
学 年：6学年
単 元：ユニット⑥
オリンピック・パラリンピック
講 師：齋藤 涼子 先生
(白百合女子大学)
- ◇11月14日 研究授業
授業者：大尾 朋美 (向陽台小学校)
学 年：4学年
単 元：Unit 8
This is my favorite place.
講 師：高橋 美香 校長
(荒川区立尾久第六小学校)
- ◇1月16日 研究のまとめ
- ◇2月13日 研究発表
(稲城第六中学校主幹教諭 望月厚 記)

あきる野市

I. 研究主題

「生徒の学力を向上させるための4技能の指導方法～効果的な小中一貫教育の在り方」

II. 研究の経過

◇6月6日 授業研究I

会場：御堂中学校

授業者：桜澤 由美子 主任教諭
門平 綾子 主任教諭
川村 美希 教諭

授業内容：NEW HORIZON 3
Presentation 1

講師：国立市教育委員会指導主事
植木 淳 先生

◇8月23日 授業力向上研修

会場：五日市中学校

内容：「外国語・外国語活動における小中一貫教育の在り方について」

講師：教職員研修センター研修部
白川 智恵子 先生

◇10月3日 授業研究II

会場：草花小学校

授業者：増田 美穂 教諭

授業内容：えいごとなかよくなろう

講師：小学校英語教育アドバイザー
三浦 邦子 先生

◇1月16日 授業研究III

会場：東中学校

授業者：小又 貴代 主任教諭
小林 茉央 教諭

授業内容：NEW HORIZON 1
Daily Scene 5 道案内

講師：教職員研修センター研修部
白川 智恵子 先生

III. 成果と課題

研究授業の実践事例から各校の課題点を詳らかにした。意見交換を行い、研究主題を深めた。中学校入門期への効果的な接続を図ることを考慮し、小中それぞれの立場を踏まえて今後も討議を継続させたい。来年度も小中一貫教育を考察する機会を積極的に設けたい。

(御堂中学校主任教諭 佐々木勝 記)

西 東 京 市

I. 研究主題

「コミュニケーション活動のさらなる充実～新学習指導要領・小中一貫を見据えて～」

II. 研究の経過

◇5月16日 平成30年度西東京市立 中学校教育研究会

①定期総会及び英語部会

②各校自己紹介・組織作り

③今年度活動方針と活動内容設定

◇11月14日 研究授業と研究協議

会場：田無第二中学校

研究授業：1年D組教室

授業者：田無第二中学校
星 雄介 教諭

授業内容：NEW CROWN 1

Lesson 6 My Family

講師：都立両国高等学校附属中学校
杉本 薫 先生

講演：「新学習指導要領に対応した
英語授業」

海外派遣研修報告：青嵐中学校

重野 巴 教諭

今年度の成果と課題：

今年度は、「コミュニケーション活動のさらなる充実～新学習指導要領・小中一貫を見据えて～」をテーマとして研究を行った。11月の一斉部会では、田無第二中学校の星教諭による授業を通して、コミュニケーション型の授業、および主体的・対話的・深い学びのある授業とは何かについて議論を行った。また、その後の講演では、都立両国高校附属中学校の杉本先生より、同テーマについての助言を頂いた。来年度は今年度の研究会で習得したことをもとに、さらに実践を通して新しい授業について研究活動を行っていきたい。

(明保中学校主任教諭 當麻忠幸 記)

羽村市・西多摩

I. 研究主題

「まとまりのある英文を書く力を育むための工夫」

II. 研究の経過

◇5月9日 一斉部会

会 場：平井中学校

内 容：本年度の研究主題の決定
役員選出

◇8月22日 夏季研修会

会 場：奥多摩中学校

内 容：研究テーマにつながる実践紹介
5行エッセイについて
予算案について

◇10月31日 一斉教科部会

会 場：檜原村立檜原中学校

内 容：研究授業 協議会

授業者：檜原中学校

田中 朋也 教諭

講 師：青梅市教育委員会教育支援室

田中 眞 教育アドバイザー

◇2月6日

会 場：羽村市生涯学習センター

ゆとろぎ 小ホール

内 容：全体研修会・記念講演

III. 成果と課題

一斉部会や夏季研修会で、各校での実践を共有し、それぞれの学校の実情に合わせてライティング指導に取り組むことができた。

当初の計画よりも研究授業が少なくなっ
てしまったことが反省点である。

(奥多摩中学校主任教諭 佐藤修 記)

大 島 町

I. 研究主題

「基礎学力定着を目指した学力向上のための工夫～小学校での英語教科化を踏まえて～」

II. 研究の経過

◇4月18日 大島町中学英語研究会

①平成29年度活動報告

②平成30年度組織作り

研究主題・年間活動計画の検討

◇5月30日 教育研究会英語部会

会 場：大島町立第三中学校

①研究授業

対 象：第1学年

授業者：中野 峻佑 先生

②研究協議

③情報交換

◇10月10日 教育研究会英語部会

会 場：大島町立つばき小学校

①研究授業

対 象：第5学年

授業者：山口 亮介 先生

②研究協議

③情報交換

◇11月28日 教育研究会英語部会

会 場：大島町立第一中学校

①情報交換会

◇1月23日 教育研究会英語部会

会 場：大島町立第一中学校

①研究授業

対 象：第1学年

授業者：松原 陽子 先生

南谷 あゆみ 先生

②研究協議

③本年度の反省と来年度の課題協議

(第二中学校主幹教諭 吉本洋人 記)

八 丈 町

I. 研究主題

「コミュニケーション能力を活用できる
児童・生徒の育成」
～発達段階に応じた指導の工夫～

II. 活動の経過

◇5月9日 第1回部会

研究主題、活動計画、組織作り

◇7月12日 第2回部会

①研究授業

会 場：三根小学校

対 象：第6学年

授業者：エマールフランソワ 夏樹 教諭

市倉 隆司 教諭

宇喜多 純平 教諭

②協議

③情報交換

◇10月10日 英検IBAテスト実施

◇11月14日 第3回部会

①研究授業

会 場：大賀郷中学校

対 象：第3学年

授業者：山本 力 教諭

②協議

③情報交換

◇1月16日 第4回部会

①研究授業

会 場：三原中学校

対 象：小学校6年生、中学校3年生

授業者：峯重 透 教諭

②協議

③年度末反省・まとめ

④情報交換

(三原中学校教諭 峯重透 記)

平成 30 年度
中英研事業報告

1. 4月24日（火）役員会
於：武蔵野市立第五中学校

- ①役員組織等の確認
- ②年間事業計画の検討
- ③中英研定期総会に向けて
- ④役員会の日程について
- ⑤関ブロ埼玉大会について
- ⑥全英連滋賀大会について

2. 5月10日（木）定期総会・懇親会
於：武蔵野市立第五中学校

- ①29年度事業報告・決算報告
- ②29年度会計監査報告
- ③新役員の承認
- ④30年度行動目標の承認
- ⑤30年度事業計画・予算の承認

◎講演会

主 題「これからの英語教育～今、英語
科教員に求められる力～」

講 師：東京都教育委員会

統括指導主事 中谷 愛 氏

◎懇親会

3. 6月20日（水）役員会
於：武蔵野市立第五中学校

- ①各部主催のワークショップの日程
及び内容等について
- ②中英研HPについて
- ③総会・囲む会について
- ④関ブロ東京大会について

4. 7月10日（火）役員会
於：武蔵野市立第五中学校

- ・都中教研総会の報告
- ・各部夏期ワークショップの確認

- ・地区幹事会の確認
- ・関ブロ埼玉大会理事会について
- ・関ブロ東京大会について

5. プロジェクトチーム部研修会
於：豊島区立明豊中学校

講 師：小林 博子 先生
(豊島区立明豊中学校)
渡邊 英哲 先生
(稲城市立稲城第四中学校)
太田 洋 先生
(東京家政大学教授)

6. 第16回研究部ワークショップ
【第1回 8月1日（水）】

於：千代田区立九段中等教育学校
講 師：島田 朋美 先生
(荒川区立第四中学校)
高杉 達也 先生
(千代田区立九段中等教育学校)
溪内 明 先生
(文京区立第八中学校)

- 【第2回 8月8日（水）】

於：豊島区立千登世橋中学校
講 師：太田 裕也 先生
(品川区立鈴ヶ森中学校)
森沢 俊彦 先生
(品川区立荏原第五中学校)
水嶋 諒 先生
(江東区立第四砂町中学校)

- 【第3回 8月20日（月）】

於：品川区立荏原第六中学校
講 師：三上 健二郎 先生
(大田区立出雲中学校)
岡崎 伸一 先生
(品川区立荏原第六中学校)
古川 悟 先生
(品川区立荏原第六中学校)

7. 8月21日（火）
夏期ワークショップ（調査部主催）
於：千代田区立九段中等教育学校
主 題「『聞くこと』のテストづくり」

- 講師：工藤 洋路 先生
(玉川大学准教授)
8. 8月22日(水) 地区幹事会
於：武蔵野市立第五中学校
各地区の活動状況について
(講演会)
講師：教育庁指導部国際教育事業
担当課 課長 森 晶子 氏
主 題 「東京都英語村 TOKYO
GLOBAL GATEWAY の
事業概要について」
9. 9月26日(水) 役員会
於：武蔵野市立第五中学校
①各部夏期ワークショップの報告
②地区幹事会の報告
③関ブロ埼玉大会、東京大会
④2月研究発表会について
10. 9月28日(金) プロジェクトチーム部
第2回研修会
於：三鷹市立第一中学校
授業者：田中 佳奈 先生
講師：太田 洋 先生
(東京家政大学教授)
11. 10月12日(金)
第58回大都市公立中学校英語
教育研究連絡協議会名古屋大会
12. 10月17日(水) 役員会
於：武蔵野市立第五中学校
①大都市英語大会報告
②英語学芸大会実施要項
③小中連携
④会計
13. 11月16日(金) 17日(土)
第68回全国英語研究大会滋賀大会
於：第1日目 びわ湖ホール
第2日目 ピアザ淡海 他
14. 第42回関東甲信地区
英語教育研究協議会 埼玉大会
於：鴻巣市文化センター他
分科会発表者：前田 宏美先生
- (葛飾区立四ツ木中学校)
助言者：市川 拓治 指導主事
(東京都教職員研修センター)
15. 11月22日(木)
「都中英研だより」第72号発行
16. 12月2日(日)
第71回英語学芸大会
於：豊島区立千登世橋中学校
17. 12月10日(月) 役員会
於：武蔵野市立第五中学校
①関ブロ埼玉大会報告
②英語学芸大会報告
③研究部研究発表会について
④授業力アップ研修会について
⑤会報原稿執筆依頼について
18. 1月15日(火)
平成30年度東京都教職員研修センター
教育課題研究発表会での展示発表
19. 2月22日(金)
中英研研究部発表会
於：渋谷区立松濤中学校
授業者：前川 卓哉 先生
研究発表：「語いと英語教育(42)」
20. 2月25日(月) 役員会
於：武蔵野市立第五中学校
①研究部発表会報告
②次年度組織、活動計画について
③関ブロ東京大会について
21. 3月 役員会(予定)
於：未定
①研究部発表会報告
②平成31年度役員人事について
③関ブロ東京大会につい
④次年度総会について
⑤情報交換
22. 3月中旬「中英研会報」発行予定
(副会長 遠藤 哲也 記)

東京都中学校英語教育研究会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は東京都中学校英語教育研究会と称する。
- 第2条 本会の事務所は会長指定の経理部長在籍校の所在地に置く。
- 第3条 本会は東京都中学校の英語教育関係者を会員とする。

第2章 目的及び事業

- 第4条 本会は中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に、英語教育の振興を図ることを目的とする。
- 第5条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1. 各種研修会の開催（研修会、発表会、講演会等）
 2. 調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
 3. 研究活動（英語教育に関わる基礎的かつ実践的な課題等）
 4. 各種英語教育団体との連絡
 5. 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

第3章 役員及び幹事

- 第6条 本会には次の役員および幹事をおく。
1. 会長1名
 2. 副会長若干名
 3. 部長各部ごと1名
 4. 副部長各部ごと若干名
 5. 会計監査2～3名
 6. 幹事各区、市ごとに1名
- 第7条 役員を選出は次のとおりとする。
1. 会長・副会長は役員会の推薦により、総会の承認を得なければならない。
 2. 部長・副部長は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
 3. 会計監査は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
- 第8条 役員の仕事は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
 2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行すると共に、各部を分担する。
 3. 部長は担当副会長と協議の上、部会を招集し、会務を執行する。
 4. 幹事は本部と各地区との連絡にあたる。
 5. 事務局は総務部が担当し、事務局長は総務部長があたる。
 6. 会計監査は会計の監査を行い、その結果を総会に報告する。

第9条 役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 本会に相談役、参与及び顧問をおくことができる。

1. 相談役はOB会長及び副会長より、参与は現職校長より役員会の推薦により会長が委嘱する。
2. 顧問は英語科出身の指導主事より会長が委嘱する。

第4章 会 議

第11条 会議は次のとおりとする。

1. 総 会

毎年1回会長が招集し、会務の報告、役員的人事、予算、決算等を審議し、決定する。ただし、必要がある場合は臨時に開くことができる。

2. 役員会

会長・副会長・部長をもって構成し、必要に応じて副部長・会計監査を加え、会長の諮問機関とする。

3. 幹事会

役員・幹事をもって構成し、学期1回以上例会を開き、会務を執行する。

4. 部 会

[総務部] 庶務・会計・渉外及び他部に属さない事項の処理

[事業部] 会の年間計画・英語学芸会・研修会、その他会長より委嘱された事業の立案・計画・推進

[調査部] コミュニケーションテスト及び英語教育に関する調査の実施

[研究部] 語彙指導などの研究活動とその普及のための広報活動、研究発表会および公開授業の開催

[出版部] 中英研だより・会報などの発行

[プロジェクト・チーム部] 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究の推進

第5章 会 計

第12条 本会の会費は東京都中学校教育研究会よりの交付金をもってあてる。

第13条 本会の経費は会費およびその他の収入による。

第14条 本会の予算・決算は総会の承認を得なければならない。

第15条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 付 則

第16条 本会の設立は昭和56年4月1日とする。

第17条 本会則は昭和60年4月1日より実施する。

第18条 本会則の変更は総会の承認を得なければならない。

第19条 細則は幹事会で定めることができる。

※改定 第5条2、3及び第11条4は平成17年5月19日より実施する。

※改定 第2条及び第16条は平成30年5月10日より実施する。

平成 30 年度 東京都中学校英語教育研究会役員名簿

役 名	氏 名	所 属 校
会 長	刀 根 武 史	武蔵野市立 第 五 中 学 校
副 会 長	遠 藤 哲 也	葛 飾 区 立 水 元 中 学 校
”	佐 藤 ひろみ	八王子市立 横 川 中 学 校
”	田 谷 至 克	墨 田 区 立 両 国 中 学 校
”	後 藤 正 彦	国分寺市立 第 一 中 学 校
”	難 波 浩 明	足 立 区 立 第 十 四 中 学 校
”	柳 歆 子	大 田 区 立 馬 込 中 学 校
”	横 山 達 也	八王子市立 第 六 中 学 校
担当副会長 兼総務部長	遠 藤 哲 也	葛 飾 区 立 水 元 中 学 校
経 理 部 長	佐 藤 ひろみ	八王子市立 横 川 中 学 校
総務副部長	田 中 誠 一 郎	三 鷹 市 立 第 六 中 学 校
部 員	新 野 美 紀	練 馬 区 立 大 泉 桜 学 園 中 学 校
”	長 尾 諭	大 田 区 立 石 川 台 中 学 校
”	佐々木 昭 央	目 黒 区 立 目 黒 第 九 中 学 校
”	星 正 行	足 立 区 立 入 谷 南 中 学 校
”	米 岡 利 昌	葛 飾 区 立 水 元 中 学 校
”	小 林 和 代	葛 飾 区 立 水 元 中 学 校
担当副会長	佐 藤 ひろみ	八王子市立 横 川 中 学 校
調 査 部 長	大 森 博	練 馬 区 立 中 村 中 学 校
副 部 長	荒 川 高 広	千代田区立 九段中等教育学校
部 員	相 澤 雄 介	練 馬 区 立 光 が 丘 第 三 中 学 校
”	安 部 智 秀	練 馬 区 立 大 泉 中 学 校
”	大木田 陽 子	文 京 区 立 茗 谷 中 学 校
”	大 澤 陽 子	世田谷区立 駒 沢 中 学 校
”	大 竹 希 依 子	八王子市立 長 房 中 学 校
”	加 藤 真 由 子	調 布 市 立 第 五 中 学 校
”	上 水 謙 治	小 平 市 立 小 平 第 五 中 学 校
”	榎 野 真 弓	武蔵野市立 第 五 中 学 校
”	木 村 弘 恵	品 川 区 立 浜 川 中 学 校
”	斎 藤 基	日 野 市 立 日 野 第 三 中 学 校
”	白 井 靖 子	江 東 区 立 深 川 第 三 中 学 校
”	柴 野 泰 行	江 東 区 立 第 二 砂 町 中 学 校
”	杉 本 康 子	小 平 市 立 小 平 第 二 中 学 校

役名	氏名	所属校
部員	鈴木美帆	杉並区立向陽中学校
〃	高瀬ひとみ	品川区立鈴ヶ森中学校
〃	丹生幸宣	小平市立上水中学校
〃	坪内英津子	三鷹市立第三中学校
〃	永井剛	日野市立七生中学校
〃	西尾恭子	中野区立第四中学校
〃	野地優子	日野市立日野第一中学校
〃	幡野洋子	日野市立日野第四中学校
〃	星雄介	西東京市立田無第二中学校
〃	前田秋輔	東京都立桜修館中等教育学校
〃	松村祐輔	足立区立竹の塚中学校
〃	宮崎太樹	八王子市立ひよどり山中学校
〃	山下郁子	日野市立大坂上中学校
担当副会長	後藤正彦	国分寺市立第一中学校
事業部長	横山達也	八王子市立第六中学校
副部長	相沢隆二	目黒区立目黒中央中学校
〃	大屋剛	足立区立西新井中学校
〃	前川卓哉	渋谷区立松濤中学校
部員	米澤登志子	世田谷区立弦巻中学校
〃	明石達彦	江戸川区立西葛西中学校
〃	宮野和子	府中市立浅間中学校
〃	斉藤節子	清瀬市立清瀬第三中学校
〃	大竹希依子	八王子市立長房中学校
〃	亀田洋斉	千代田区立九段中等教育学校
〃	川越智子	北区立飛鳥中学校
〃	石井誠	渋谷区立松濤中学校
〃	才丸光	渋谷区立上原中学校
〃	小川史哲	八王子市立別所中学校
担当副会長	田谷至克	墨田区立両国中学校
研究部長	伊地知義信	豊島区立千登世橋中学校
副部長	原田博子	文京区立第十中学校
〃	溪内明	文京区立第八中学校
〃	上尾栄美子	足立区立第五中学校

役名	氏名	所属校
部員	岡崎伸一	品川区立荏原第六中学校
"	中川智子	大田区立志茂田中学校
"	江濱悦子	大田区立大森第四中学校
"	前田宏美	葛飾区立四ツ木中学校
"	壽原友理子	東京都立両国高等学校附属中学校
"	長崎真希子	江戸川区立鹿本中学校
"	島田朋美	荒川区立第四中学校
"	水嶋諒	江東区立第四砂町中学校
"	高杉達也	千代田区立九段中等教育学校
"	太田裕也	品川区立鈴ヶ森中学校
"	佐藤優	多摩市立鶴牧中学校
"	古川悟	品川区立荏原第六中学校
"	藤野康明	板橋区立志村第三中学校
"	堀田奈梨子	大田区立馬込東中学校
"	三上健二郎	大田区立出雲中学校
"	森沢俊彦	品川区立荏原第五中学校
"	島田拓	足立区立入谷南中学校
"	町田恵理子	大田区立大森第六中学校
"	岡田成博	杉並区立宮前中学校
"	柏麻里恵	葛飾区立水元中学校
"	大島良一	葛飾区立葛美中学校
担当副会長	柳歆子	大田区立馬込中学校
出版部長	今本由美子	練馬区立大泉西中学校
副部長	溝口千里	練馬区立石神井西中学校
"	小柳守生	足立区立西新井中学校
"	當麻忠幸	西東京市立明保中学校
部員	中井正弘	小平市立小平第一中学校
"	福田貴音	台東区立御徒町台東中学校
"	鈴木咲子	清瀬市立清瀬第二中学校
"	岩田歩	調布市立第五中学校
"	深山朋子	練馬区立北町中学校
"	和田圭史	杉並区立高井戸中学校
"	柳絵未	江戸川区立葛西第三中学校

あ　と　が　き

ここに、平成30年度「中英研会報」第77号をお届けいたします。

本誌の発行に際しては、青山学院英語教育研究センター所長・青山学院大学文学部英米文学科教授 木村 松雄 先生をはじめ、多くのご執筆者の皆様にご協力いただきましたことに心から御礼申し上げます。

各地区におかれましても、大変お忙しい中、地区幹事の皆様のご協力により、全地区から「地区活動状況」をご提出いただき、掲載することができました。データ入稿にもご協力いただき、ありがとうございました。

各地区の活動内容に目を向けると、次期学習指導要領の全面実施に向け、研究授業や研修会を通して、準備を進めていらっしゃる様子が伝わって参ります。本誌も、会員の皆様や、各地区での研修等の参考としていただければ幸いです。

この会報が、都内各中学校の英語科教員の情報共有の場となり、英語科教員相互の連携、都の中学校英語教育の一層の充実、発展のお役に立てることを願っております。

最後になりましたが、本誌の発行にあたり、ご支援を賜りました多くの先生方に感謝いたしますとともに、会員の皆様の一層のご活躍をお祈りいたします。

(都中英研出版部長 今本 由美子)

都中英研会報 第77号

平成31年3月7日印刷
平成31年3月7日発行

発行者 東京都中学校英語教育研究会

代表者 刀根 武史

発行所 東京都中学校英語教育研究会
東京都武蔵野市立第五中学校
東京都武蔵野市関前2-10-20
TEL (0422) 52-0421

印刷所 (株) オフィス・サンライズ
東京都大田区鵜の木2-6-5
TEL (03) 5741-3146

